

緑川水系河川整備計画の点検について

令和8年2月

九州地方整備局 熊本河川国道事務所

目次

1) これまでの点検経過	2
2) 整備計画の概要	3
3) 社会情勢の変化	4
4) 河川整備の進捗・実施状況	20
5) 河川整備計画内容の点検	37

1)これまでの点検経過

河川整備の実施

平成25年1月 緑川水系河川整備計画 策定

平成26年9月 白川・緑川学識者懇談会設立

平成26年度 河川整備計画内容の点検・事業再評価(第1回)

社会情勢の変化

河川整備の進捗・実施状況

平成29年度 河川整備計画内容の点検・事業再評価(第2回)

社会情勢の変化

河川整備の進捗・実施状況

令和2年度 河川整備計画内容の点検(第3回)

社会情勢の変化

河川整備の進捗・実施状況

令和7年1月 緑川水系河川整備計画 変更

令和7年度 河川整備計画内容の点検(第4回)

社会情勢の変化

河川整備の進捗・実施状況

2) 整備計画の概要【整備計画の目標】

○本計画で定めた以下の治水・利水・環境に関する目標の達成に向け、河川整備を実施する。

治水

洪水対策

基準地点城南での目標流量
4,600m³/sを洪水調節流量で900m³/s
調節し、**3,700m³/sの流量を安全に
流下できる河道**とすることとします。
(年超過確率1/60規模の洪水)

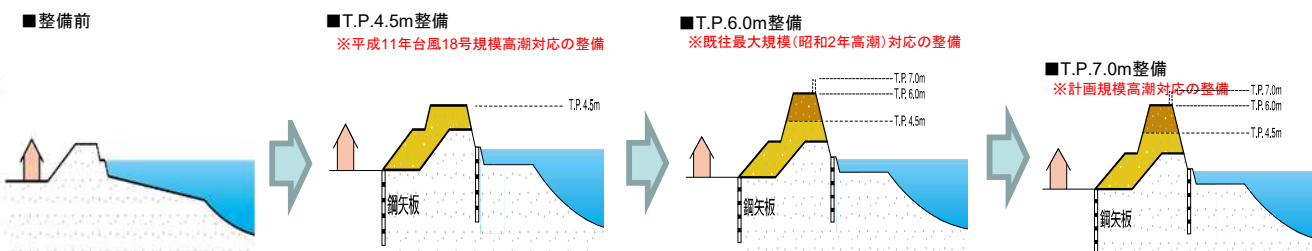
緑川本川における整備目標の基準地点流量

基準地点	目標流量	洪水調節量	河道流量
城南	4,600m ³ /s	900m ³ /s	3,700m ³ /s

高潮対策

基本方針に対応した九州の西方海上を**伊勢湾台風規模の台風が通過すること
を想定した目標高までの整備 (T.P. 7.0m)**を完了し、計画規模の高潮に対する
安全を確保することとします。

高潮対策の整備手順イメージ



堤防の安全性向上対策

洪水における浸透や浸食に対する**所要の安全性向上**を図ります。

内水対策

排水機場の適切な運用・管理を行うとともに、本川の水位を低下させ、支川
からの排水をしやすい取組みを行います。また、**自治体と協働で減災に向
けたまちづくり、ソフト対策等の更なる取組を推進し、関係機関と連携した総
合的な内水対策**に取り組みます。

地震・津波対策

大規模な地震や津波が発生した場合においても、堤防、樋門・樋管
等の各河川管理施設が最低限の機能を発揮できるよう、**施設の整備及
び機能の向上**を図ります。

維持管理

計画的かつ適切な管理により、**河道の継続的な流下能力の維持及び河川管理
施設等の安定的で長期的な機能維持**を図ります。

危機管理

流域の関係機関と連携して施設の能力を上回る洪水が発生した場合におい
ても、**逃げ遅れゼロと社会経済被害の最小化**を目指します。

利水

- 河川水の利用に関しては、**取水実態等を
踏まえ、適正な水利用**を目指します。
- 流水の正常な機能を維持するため必要な
流量については、**城南地点において概ね
6m³/sの確保**に努めます。

環境

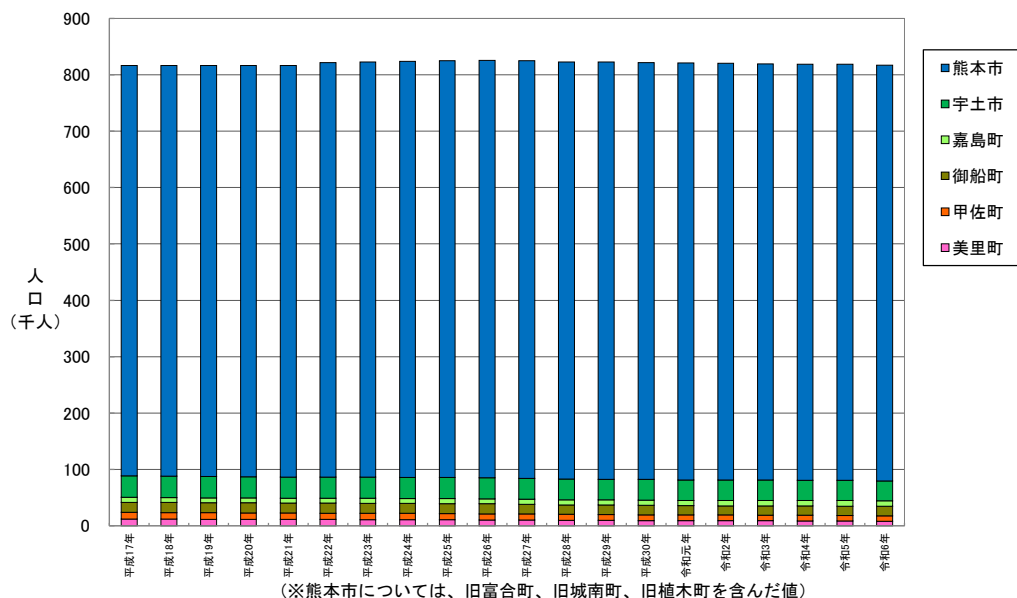
<河川環境>

- 河川環境の整備と保全に関しては、**グリーン
インフラの考え方を取り入れながら**、豊かな
自然環境を次世代に引継ぐため、流域住民や
関係機関と連携して取り組みます。
- 動植物の生息・生育・繁殖環境については、
現在の良好な河川環境を保全・維持していく
ことを基本としますが、今後、改変を行う箇
所については**新たな河川環境を創出し、劣化
傾向にある環境についても一体的に改善**して
いきます。
- 水質に関しては、環境基準を満足する良好な
水質を維持するとともに**流域全体で更なる水
質の向上**を図ります。
- 河川空間の整備と適正な利用については、沿
川地域の現状を踏まえ、**活力ある地域づく
りに資する川づくり**を目指します。
- 良好な景観の保全・創出については、緑川水
系の**清らかな流れと豊かな自然が織りなす河
川景観の保全**に努めるとともに、轡塘等の沿
川各地に残る歴史的施設、歴史的な街並み等
にみられる**文化景観と調和のとれた河川景観
の形成**を目指します。

3) 社会情勢の変化【流域内の状況の変化】

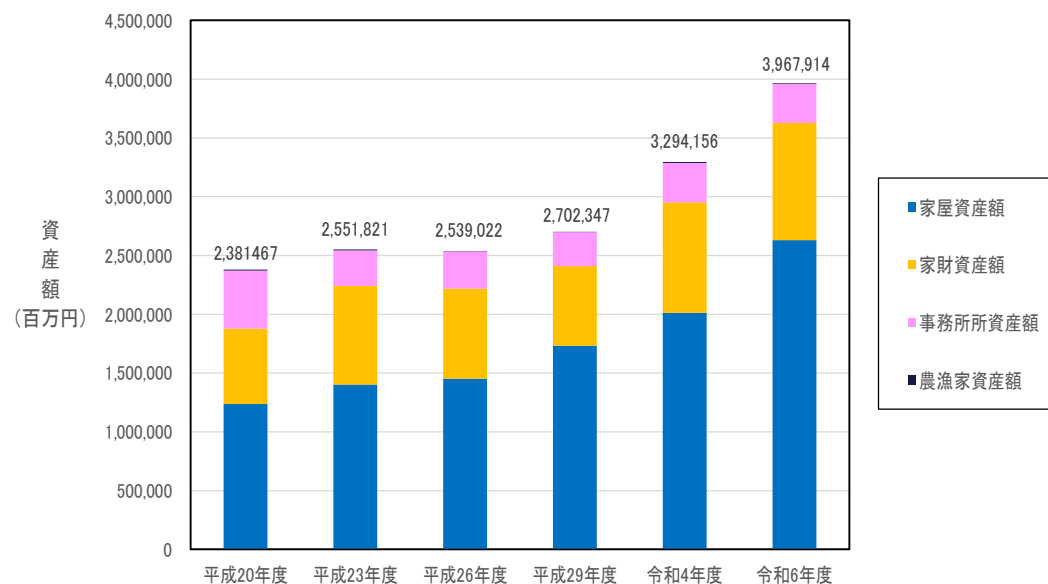
- 流域内の主要市町人口は概ね横ばいです。
- 想定氾濫区域内資産額は約4兆円です。
- 流域内の土地利用に近年大きな変化は見られず、宅地約1割、田畑約3割、山林等約6割となっています。

流域内市町村人口の変化

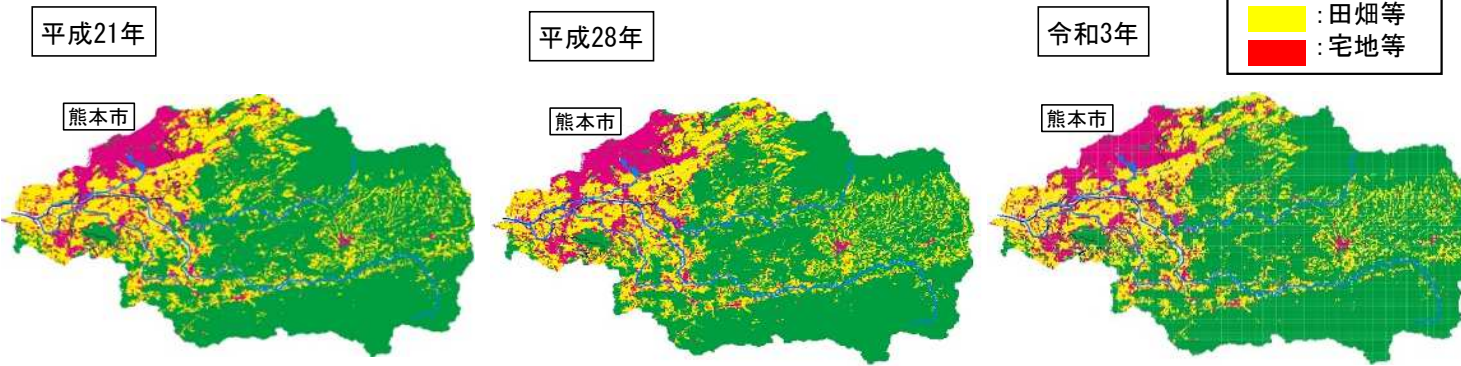


流域関連市町人口の推移 (出典：熊本県HPより)

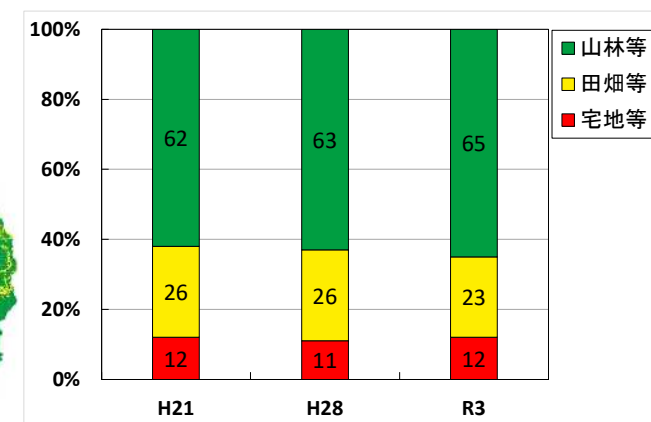
想定氾濫区域内資産額の変化



土地利用状況の変化



緑川流域における土地利用 (出典：国土数値地図土地利用メッシュデータ)



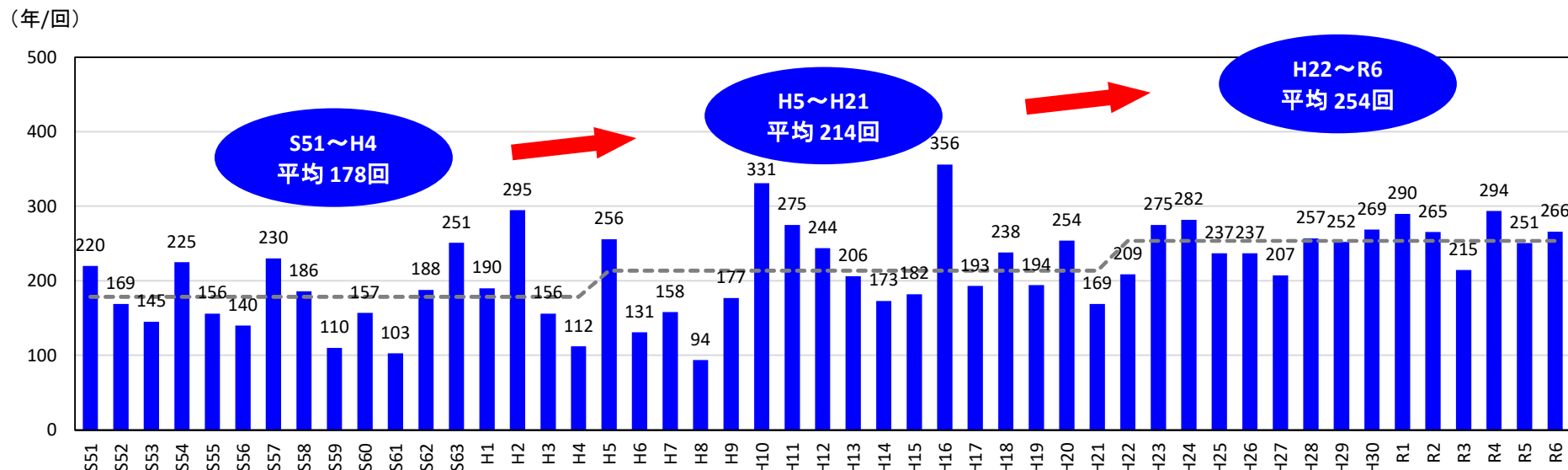
流域内の土地利用状況の変化

3) 社会情勢の変化【降水量の増加(全国)】

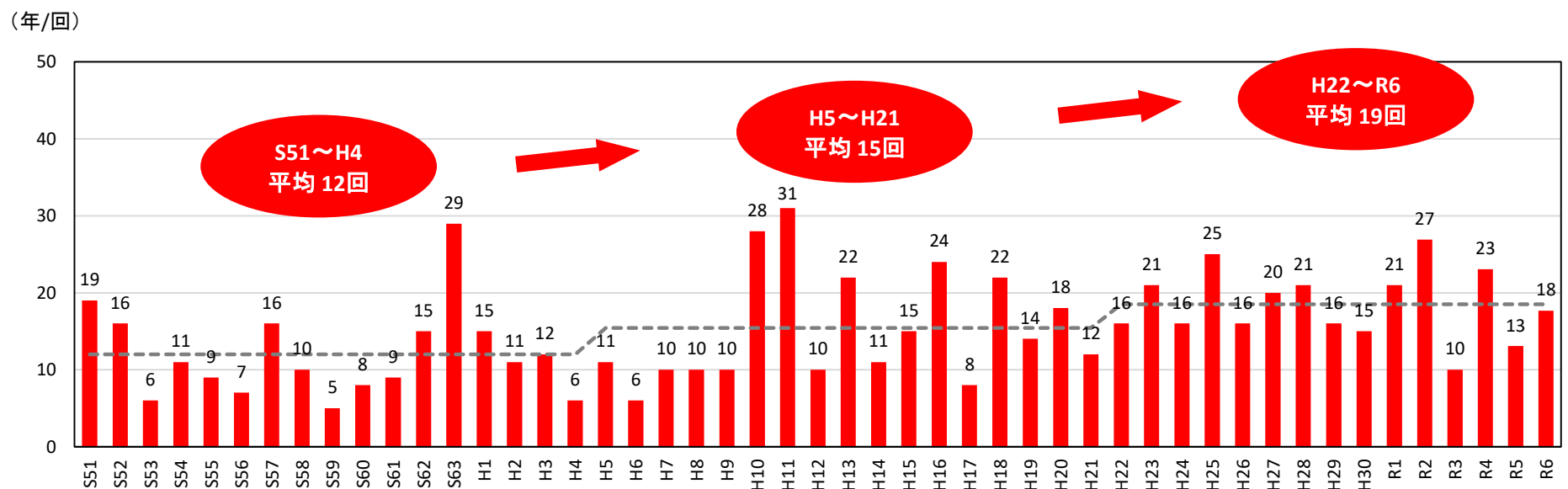
資料) 気象庁資料より作成

- 1時間降水量の年間発生回数
- 全国約1300地点のアメダスより集計

◆1時間降水量50mm以上の年間発生回数(1000地点あたり)



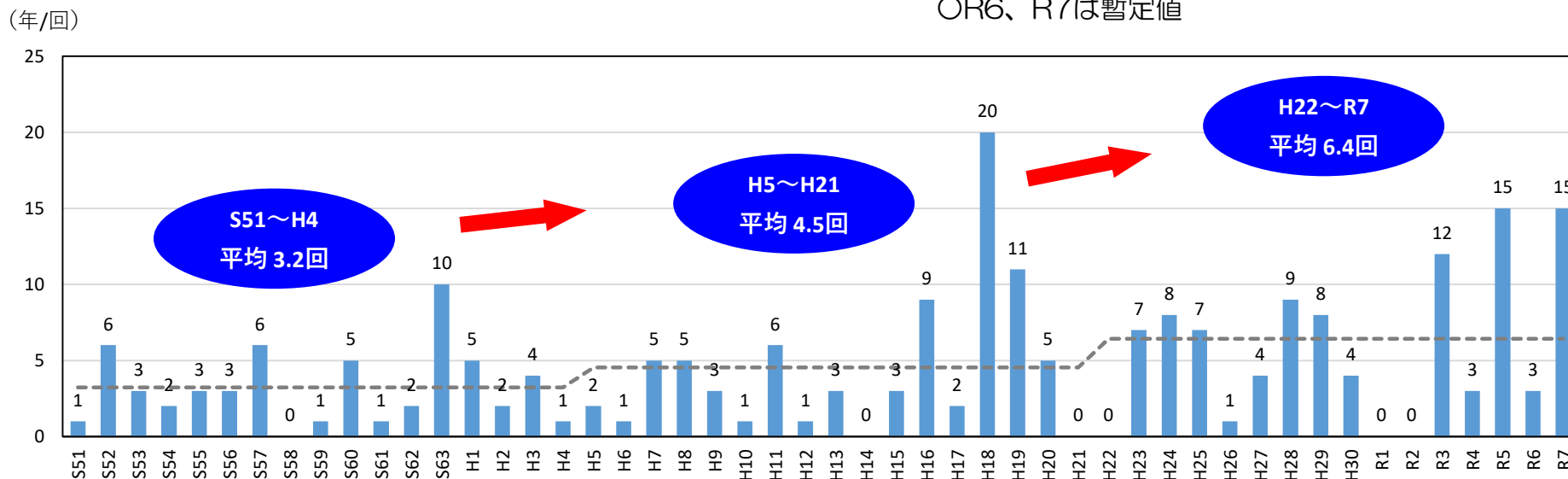
◆1時間降水量80mm以上の年間発生回数(1000地点あたり)



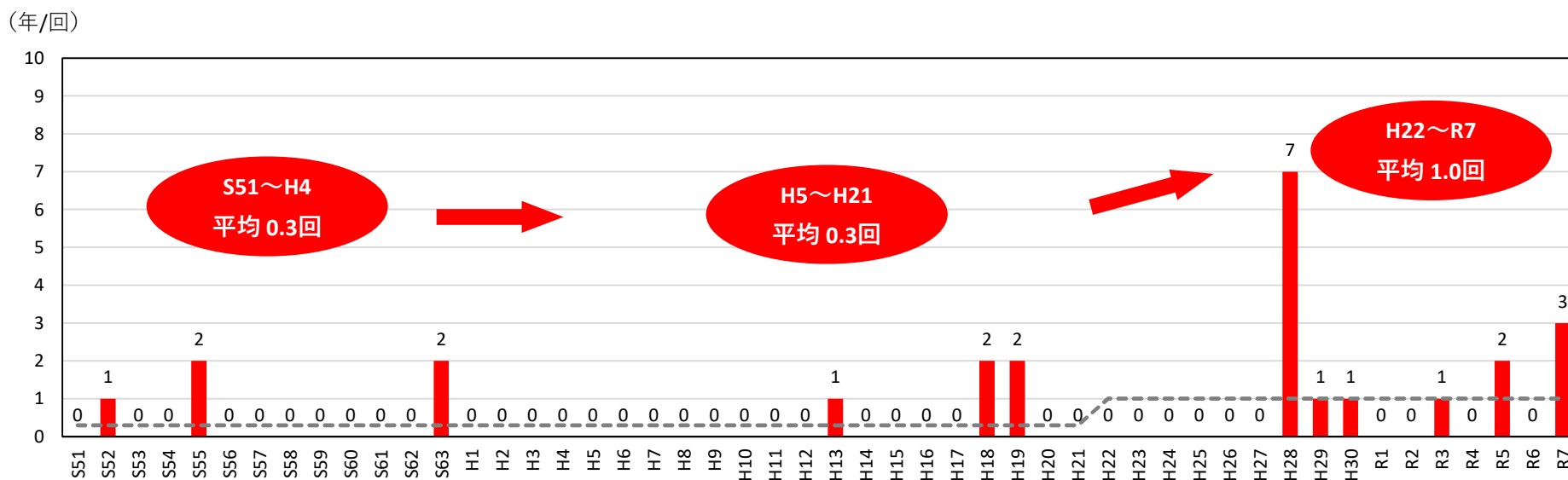
3) 社会情勢の変化【降水量の増加(緑川流域)】

◆1時間降水量50mm以上の年間発生回数(13地点あたり)

○流域内雨量観測所(13地点)データから作成
※H24以降は12地点となるため、13地点に換算
○1時間降雨量の年間発生回数
○R6、R7は暫定値



◆1時間降水量80mm以上の年間発生回数(13地点あたり)



3) 社会情勢の変化【災害の発生状況(全国)】

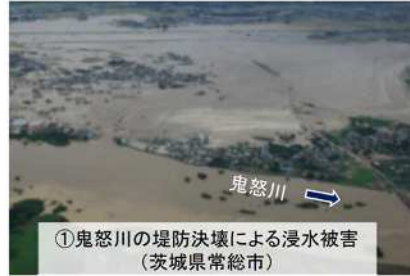
○短時間強雨の発生の増加や台風の大型化等により、近年は浸水被害が頻発しており、既に地球温暖化の影響が顕在化しているとみられる。さらに今後、気候変動による水災害の激甚化・頻発化が予測されている。

【平成27年9月関東・東北豪雨】

【平成28年8月台風第10号】

【平成29年7月九州北部豪雨】

平成
27
～
29
年



【平成30年7月豪雨】

【令和元年東日本台風】

【令和2年7月豪雨】

平成
30
年



【令和5年7月の大雨】

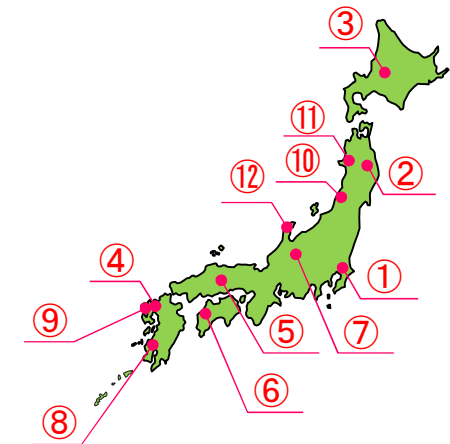
【令和3年8月の大雨】

【令和4年8月の大雨】

令和
元
～
6
年



【令和6年9月の大雨】

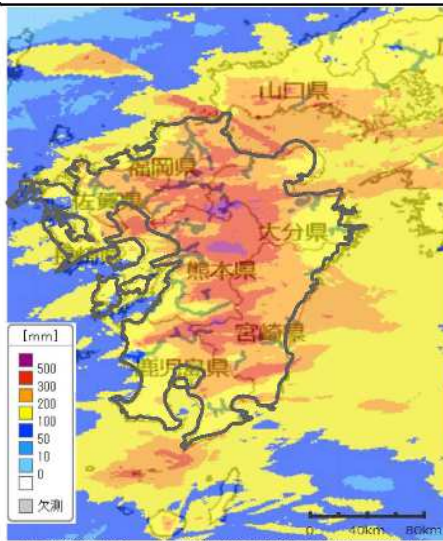


3) 社会情勢の変化 出水の発生状況(令和5年7月洪水)

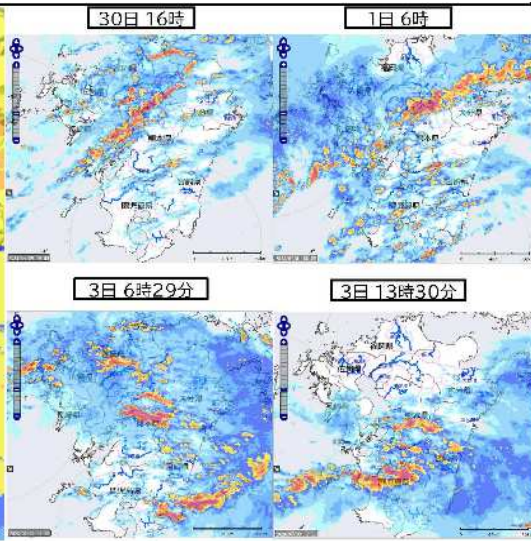
- 令和5年6月30日から7月3日にかけて、長期に梅雨前線がかかり、熊本県を中心に広範囲に強い降雨となり、線状降水帯が発生。
- 加勢川上流の木山川では複数個所で越水し、広範囲の浸水被害が発生した。

令和5年7月の降雨状況

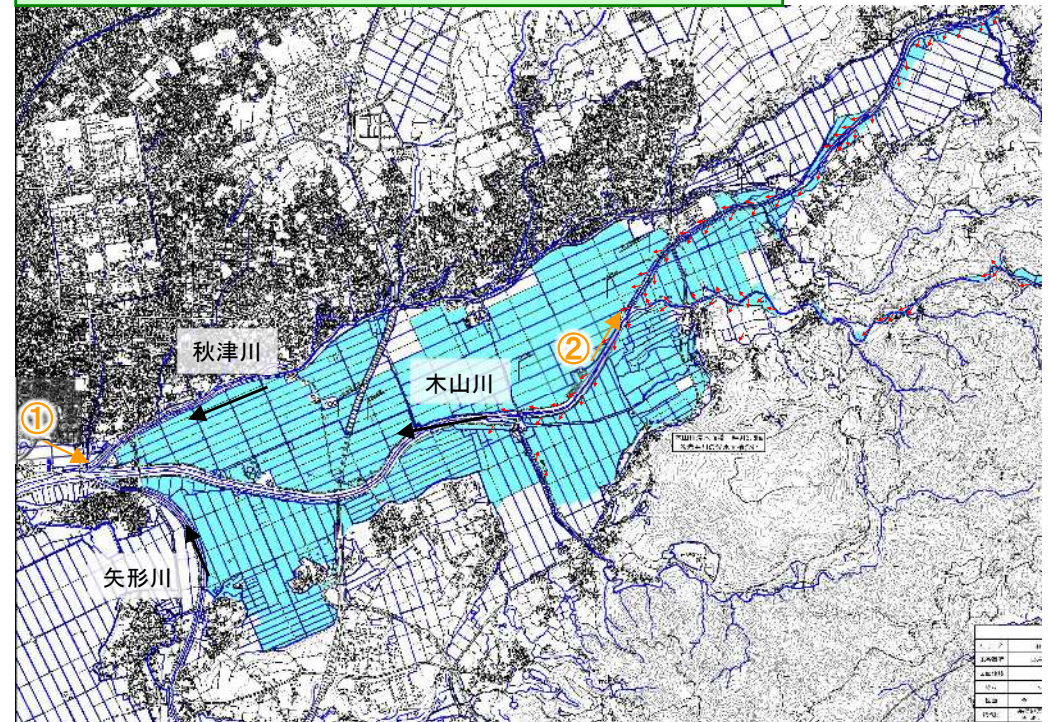
■ 累加雨量



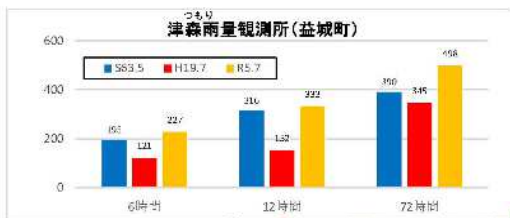
■ 雨量履歴



令和5年7月洪水による木山川周辺浸水状況



木山川の浸水状況写真

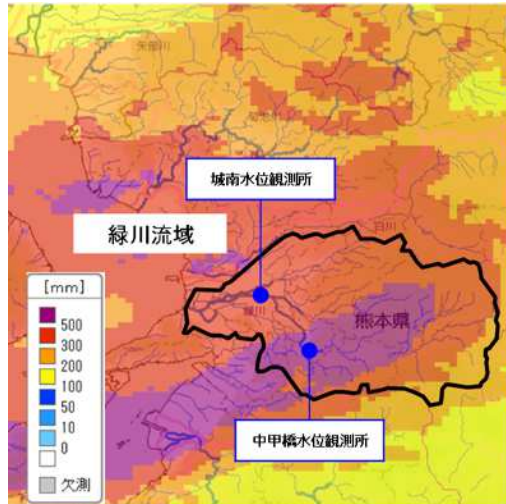


3) 社会情勢の変化 出水の発生状況(令和7年8月洪水)

- 令和7年8月7日から8月11日にかけて、九州地方で広く大雨となり、線状降水帯が繰り返し発生した。
- 11日には、**熊本県に大雨特別警報が発表**。
- 緑川上流の緑川ダム雨量観測所では、**1時間雨量113mm、12時間雨量471mm**を記録
- 城南水位観測所および中甲橋水位観測所において、**既往最高水位**を記録。

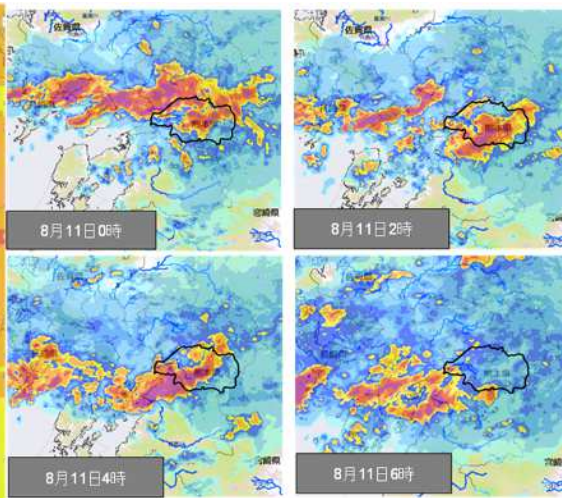
令和7年8月の降雨状況

■ 累加雨量

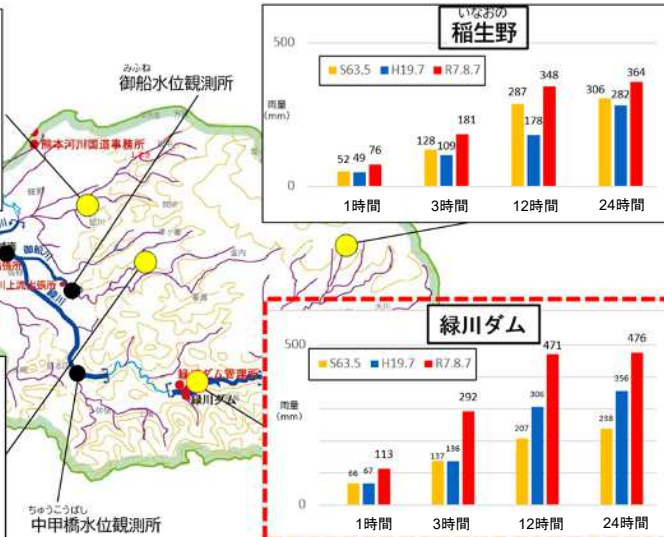
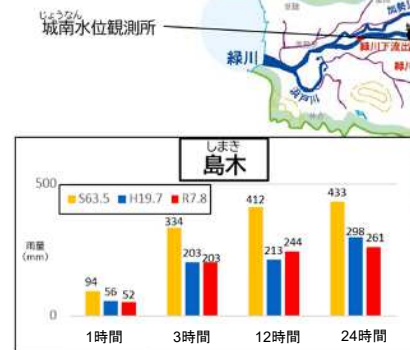
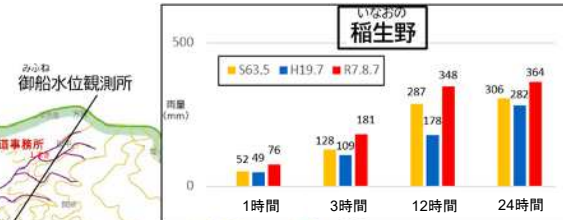
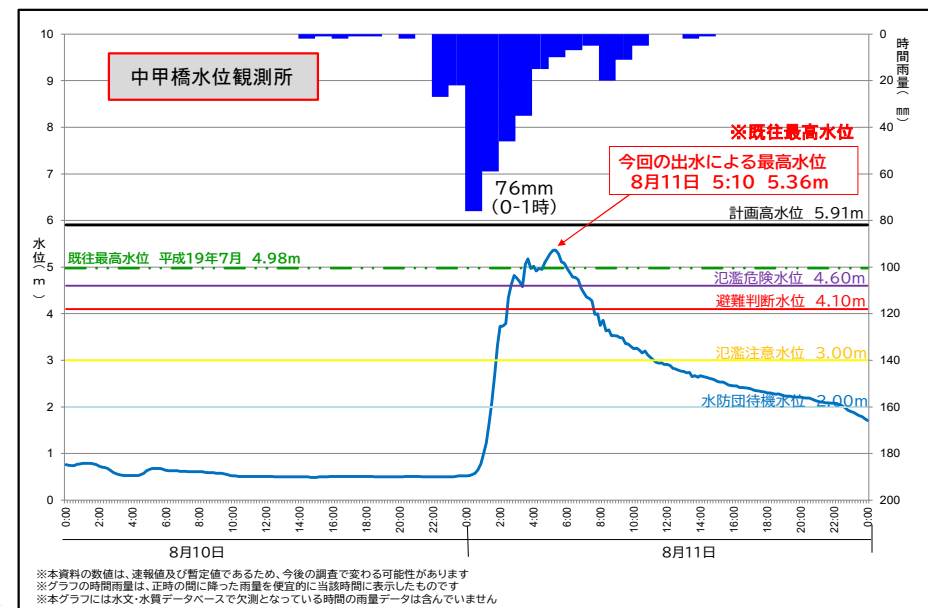
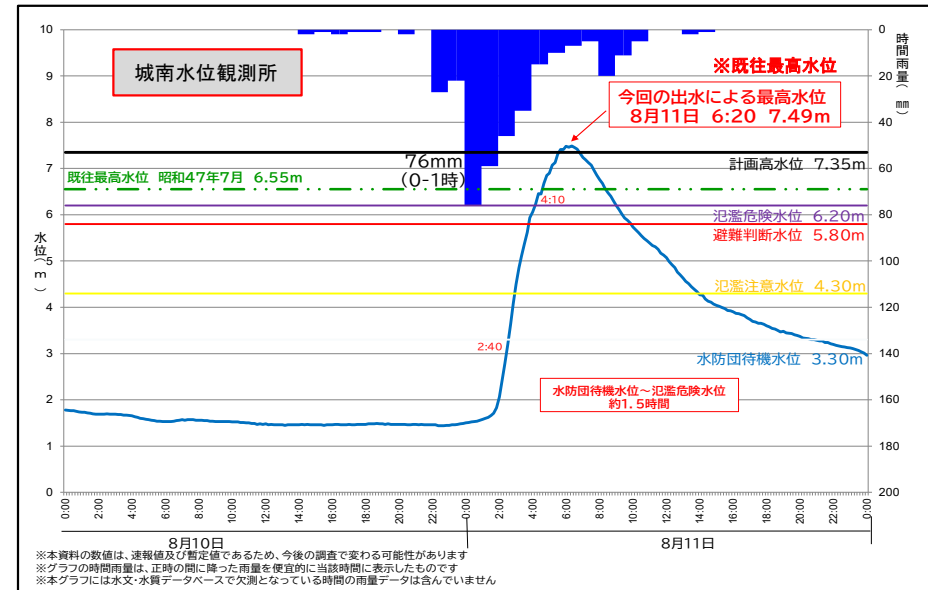


累加レーダ雨量
(8月8日0時~8月11日22時)

■ 雨量履歴



水位観測所の水位

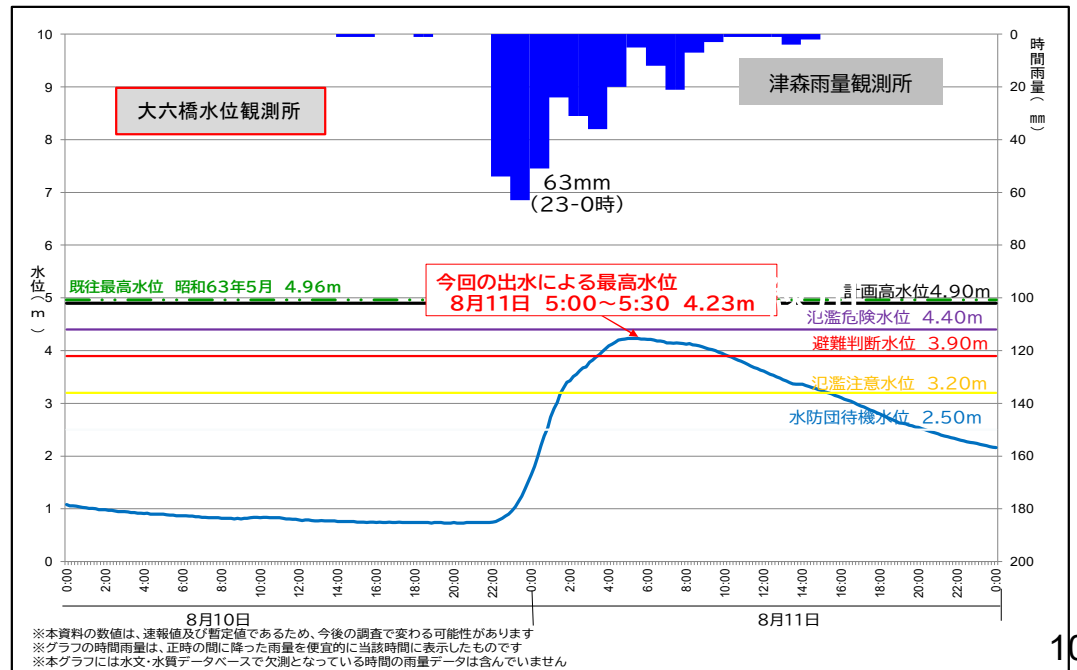
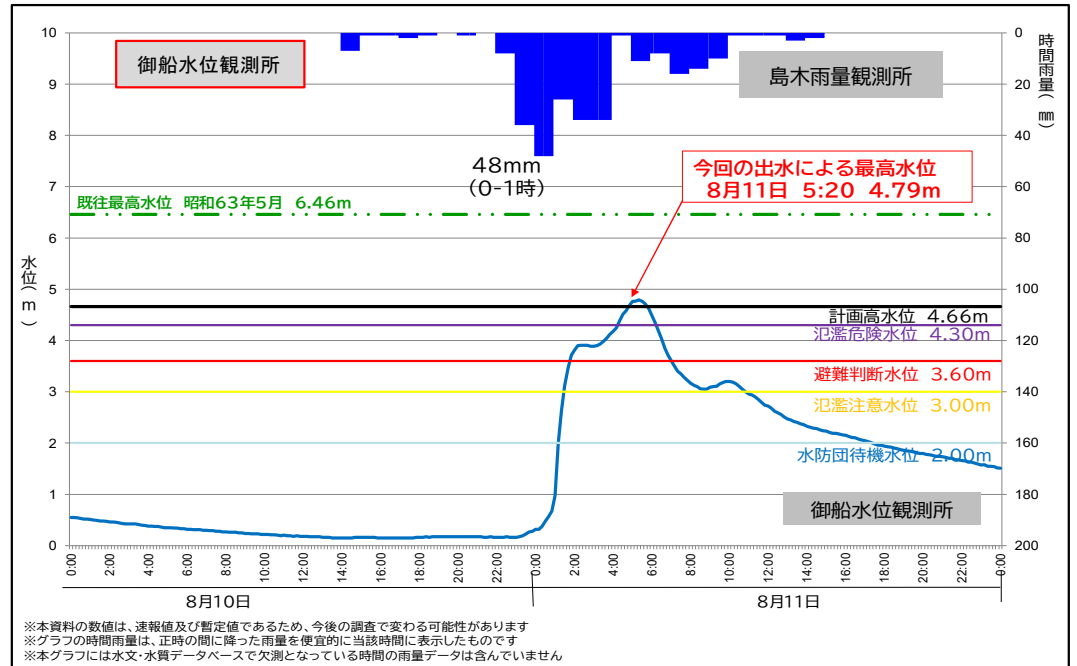


※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります
※グラフの時間雨量は、正時の間に降った雨量を便宜的に当該時間に表示したものです
※本グラフには水文・水質データベースで欠測となっている時間の雨量データは含んでいません

3) 社会情勢の変化 出水の発生状況(令和7年8月洪水)

- 御船川の御船水位観測所においても、計画高水位を超過し、**既往第3位**を記録。
- 加勢川の大六橋水位観測所においては、避難判断水位を超過し、**既往第10位**を記録

水位観測所の水位



8月11日14時00分頃



3) 社会情勢の変化 出水の発生状況(令和7年8月洪水)

令和7年8月の河川増水状況



平常時の緑川水系緑川(27k000付近)



緑川水系緑川(国管理)27k000付近
(8月11日5時30分頃)

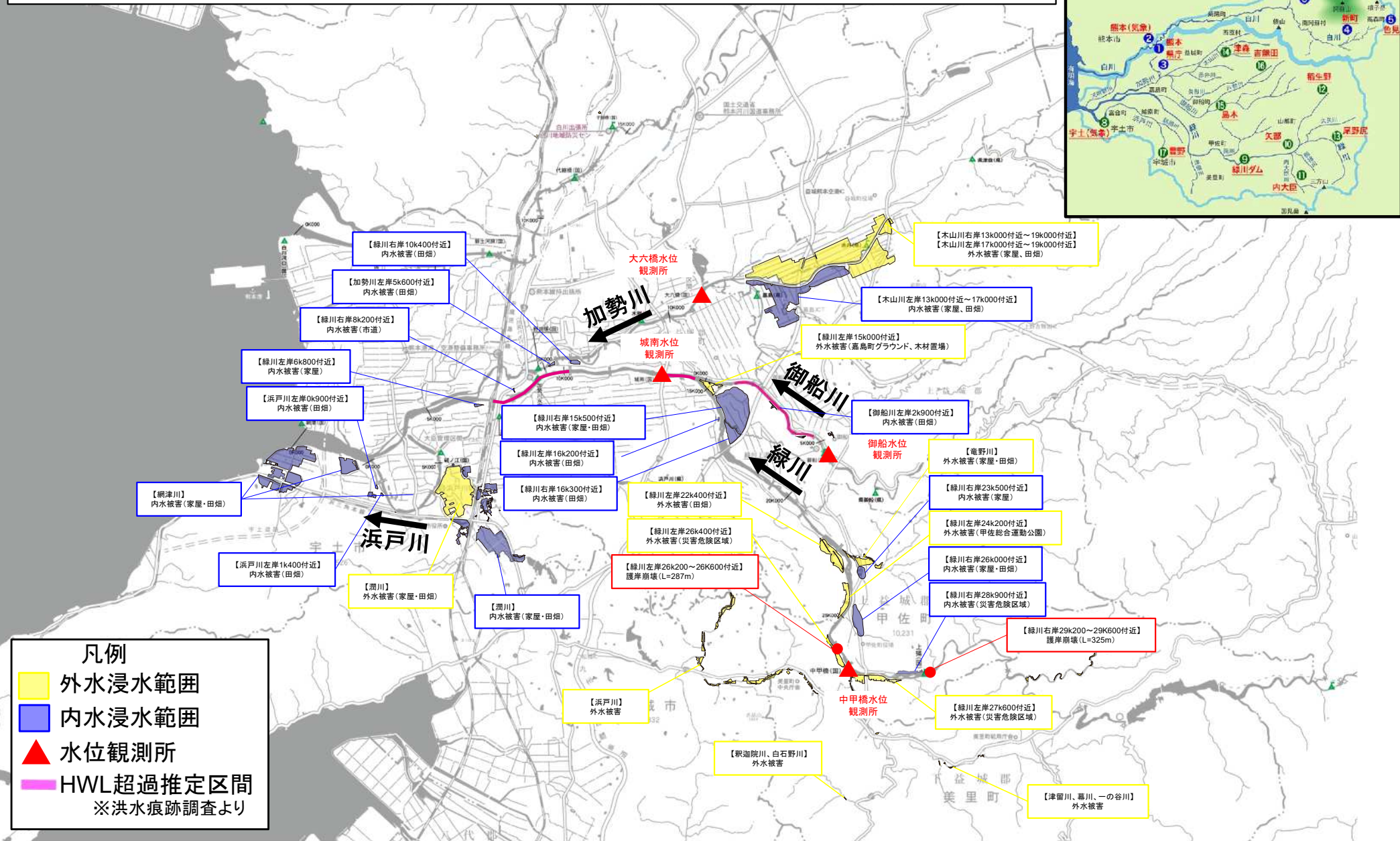


緑川水系御船川(国管理)5k300付近
(8月11日6時00分頃)



緑川水系緑川(国管理)13k500付近
(8月11日6時00分頃)

- 緑川水系において、各地で浸水被害が発生。
- 緑川中流部および御船川の一部区間においては計画高水位を超過。

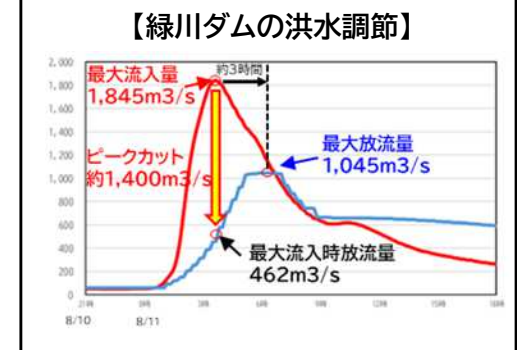
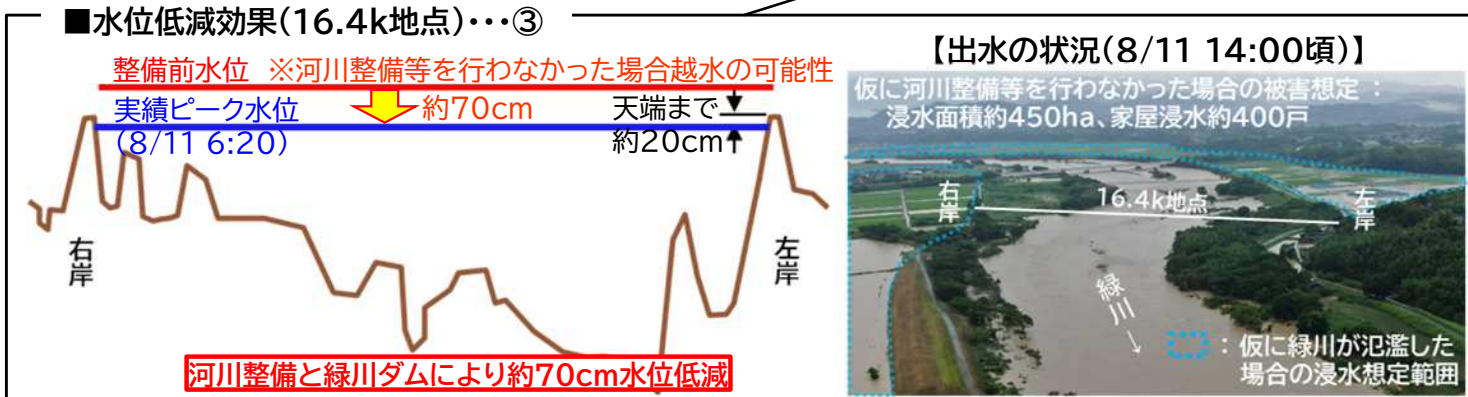
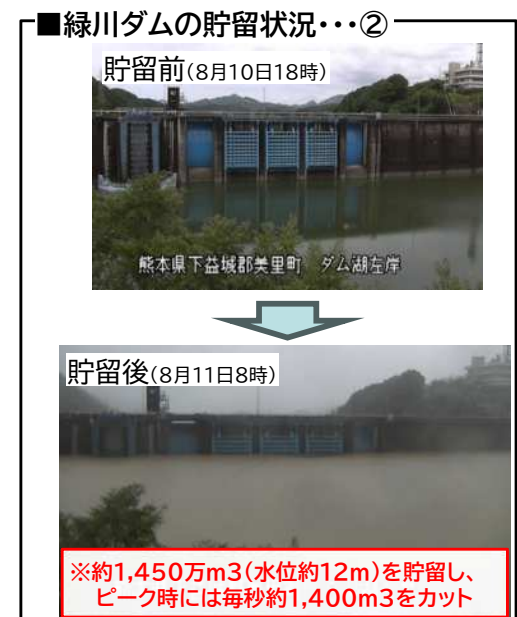


凡例

- 外水浸水範囲
- 内水浸水範囲
- ▲ 水位観測所
- HWL超過推定区間
※洪水痕跡調査より

※本資料の浸水範囲等は、速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります

- 令和7年8月7日(木)から8月11日(月)にかけて、九州地方で広く大雨となり、緑川流域の稲生野雨量観測所では24時間雨量364mmを記録し、城南水位観測所では観測史上最高水位である7.49mを記録。
- 緑川では、**緑川ダムによる洪水調節**を行うとともに、「**防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策**」、「**防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策**」などで河川整備を進めていたことにより、城南水位観測所上流(16.4k地点)において**約70cmの水位低減効果を発揮し、越水を回避**。
- 仮に、**これらの河川整備等が無かった場合は越水していたことが想定され、多くの浸水被害が発生していた可能性がある**(被害想定: 浸水面積約450ha、家屋浸水約400戸)。
※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。



位置図

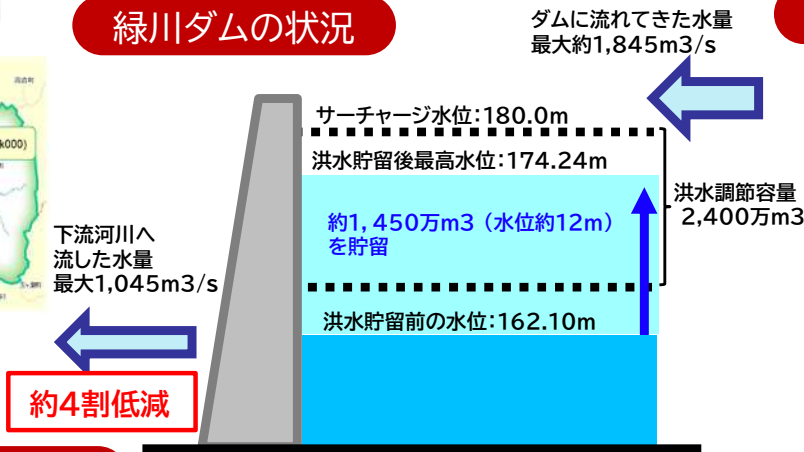


- 緑川ダムでは昭和46年のダム完成から令和7年までの間に、計82回の洪水調節を実施。洪水の一部を貯留するとともに上流から流れ込む流木を捕捉する役割も担っている。
- 令和7年8月出水においては、洪水調節により、ダム地点での最大流量の発生時刻を約3時間遅らせ、洪水の最大流量を約1,845m³/s(既往第2位)から1,045m³/sに低減し、ダム上流からの流量を約4割低減。
- これにより、甲佐町市街部を氾濫域に抱えるダム下流の中甲橋地点において約104cmの水位低減効果を発揮し、計画高水位(5.91m)の超過を回避。

流域図



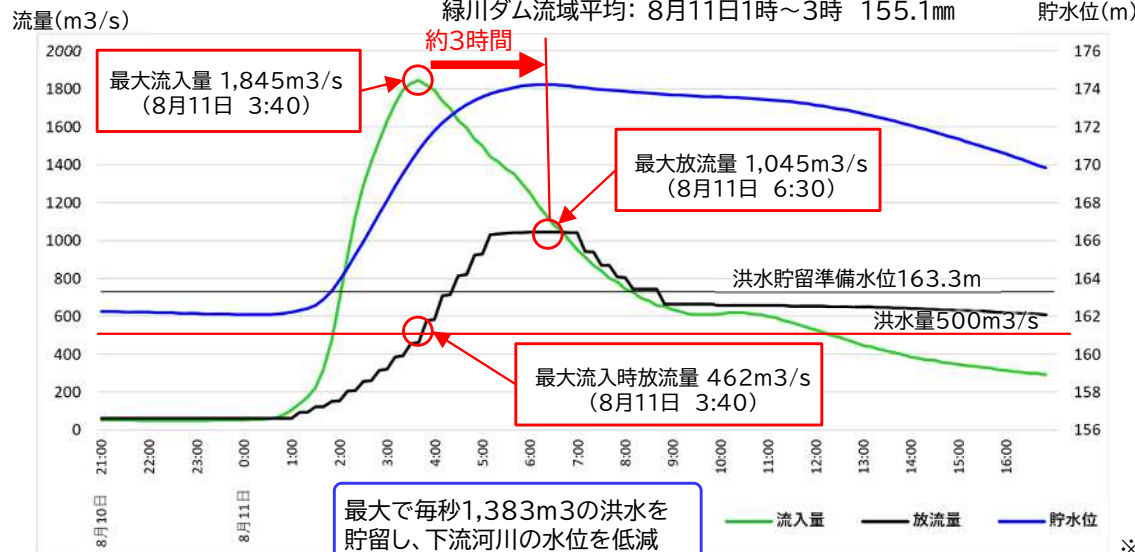
緑川ダムの状況



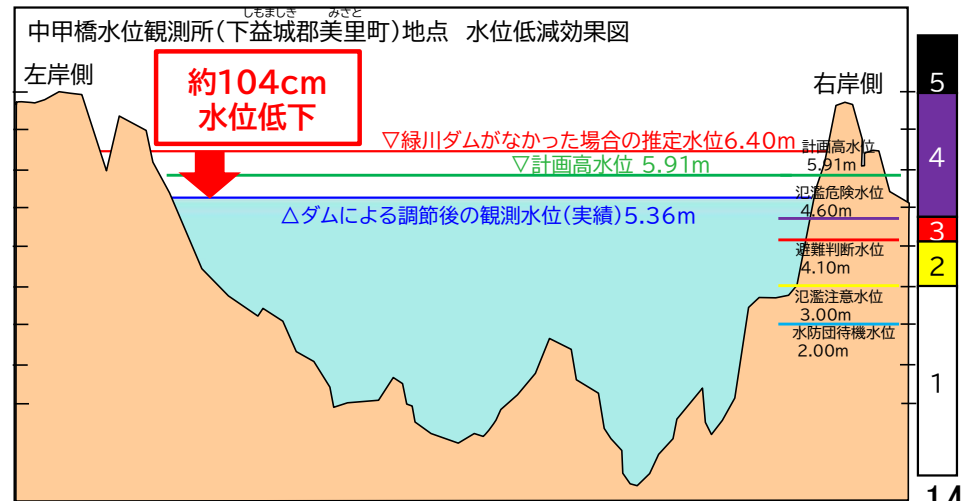
緑川ダムの貯留状況



緑川ダムによる洪水調節



水位低減効果(中甲橋地点)



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

3) 社会情勢の変化【流域治水への転換】

- 気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、河川の流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策、「流域治水」へ転換。
- 治水計画を「気候変動による降雨量の増加などを考慮したもの」に見直し、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、地域の特性に応じ、①氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策をハード・ソフト一体で多層的に進める。

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

雨水貯留機能の拡大

[国・市、企業、住民]

雨水貯留浸透施設の整備、
ため池等の治水利用

集水域

流水の貯留

[国・県・市・利水者]

治水ダム建設・再生、
利水ダム等において貯留水を
事前に放流し洪水調節に活用

河川区域

[国・県・市]

土地利用と一体となった遊水
機能の向上

持続可能な河道の流下能力の維持・向上

[国・県・市]

河床掘削、引堤、砂防堰堤、
雨水排水施設等の整備

氾濫水を減らす

[国・県]

「粘り強い堤防」を目指した
堤防強化等

② 被害対象を減少させるための対策

リスクの低いエリアへ誘導／

住まい方の工夫

[国・市、企業、住民]

土地利用規制、誘導、移転促進、
不動産取引時の水害リスク情報提供、
金融による誘導の検討

氾濫域

浸水範囲を減らす

[国・県・市]

二線堤の整備、
自然堤防の保全



③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

土地のリスク情報の充実

[国・県]

水害リスク情報の空白地帯解消、
多段型水害リスク情報を発信

避難体制を強化する

[国・県・市]

長期予測の技術開発、
リアルタイム浸水・決壊把握

経済被害の最小化

[企業、住民]

工場や建築物の浸水対策、
BCPの策定

住まい方の工夫

[企業、住民]

不動産取引時の水害リスク情報
提供、金融商品を通じた浸水対
策の促進

被災自治体の支援体制充実

[国・企業]

官民連携によるTEC-FORCE
の体制強化

氾濫水を早く排除する

[国・県・市等]

排水門等の整備、排水強化

3) 社会情勢の変化【白川・緑川水系流域治水協議会】

- 白川・緑川水系において、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を計画的に推進するための協議・情報共有を行うことを目的として令和2年9月2日に「白川・緑川水系流域治水協議会」を設置。
- 令和3年3月18日に「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」、「被害対象を減少させるための対策」、「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」をとりまとめた『白川水系流域治水プロジェクト』及び『緑川水系流域治水プロジェクト』の策定に向けて「第2回白川・緑川水系流域治水協議会」を開催。その後、令和3年3月30日に公表。
- 令和5年8月に『緑川水系流域治水プロジェクト2.0』を公表。また、令和6年3月に『白川水系流域治水プロジェクト2.0』を公表。
- 緑川水系においては、令和7年1月に河川整備計画を変更したことに伴い、令和7年5月に『緑川水系流域治水プロジェクト2.0』を更新。



第1回 白川・緑川水系流域治水協議会 開催状況



第6回 白川・緑川水系流域治水協議会 開催状況

白川・緑川水系流域治水協議会 開催状況

- 第1回 令和2年9月30日（流域治水協議会 発足）
- 第2回 令和3年3月18日（流域治水プロジェクトとりまとめ）
- 第3回 令和4年4月26日（取り組み状況の確認）
- 第4回 令和5年4月24日（緑川水系流域治水プロジェクト2.0とりまとめ）
- 第5回 令和6年4月25日（白川水系流域治水プロジェクト2.0とりまとめ）
- 第6回 令和7年5月15日（取り組み状況の確認）

流域治水協議会参画機関

- 熊本市、阿蘇市、大津町、菊陽町、高森町、西原村、南阿蘇村
- 熊本県 土木部
河川港湾局河川課、道路都市局下水環境課、河川港湾局砂防課
- 環境省 九州地方環境事務所 阿蘇くじゅう国立公園管理事務所
- 林野庁 九州森林管理局 熊本森林管理署
- 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林整備センター
熊本水源林整備事務所
- 国土交通省 九州地方整備局 熊本河川国道事務所
- 国土交通省 九州地方整備局 阿蘇砂防事務所

(オブザーバー)

- 農林水産省 九州農政局 農村振興部
- 阿蘇ジオパーク推進協議会

(3) 社会情勢の変化 流域治水プロジェクト2.0

気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。このために必要な取組を反映し『流域治水プロジェクト2.0』に更新する。

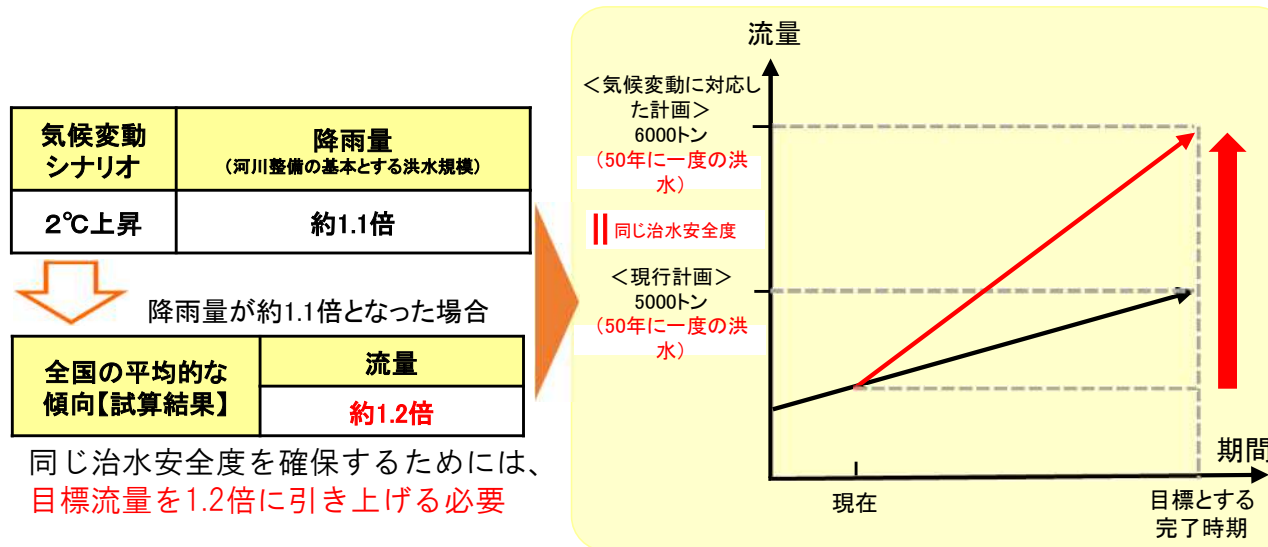
現状・課題

- ▶ 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算
現行の河川整備計画が完了したとしても治水安全度は目減り
- ▶ グリーンインフラやカーボンニュートラルへの対応
- ▶ インフラDX等の技術の進展

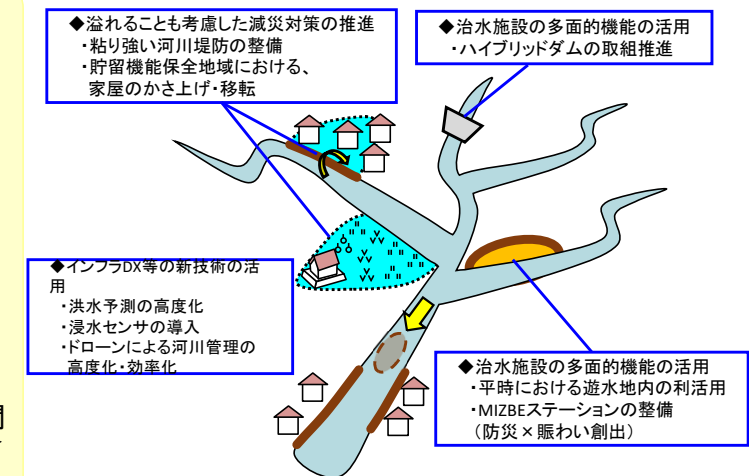
必要な対応

- ▶ 気候変動下においても、目標とする治水安全度を現行の計画と同じ完了時期までに達成する
- ▶ あらゆる関係者による、様々な手法を活用した、対策の一層の充実を図り、流域治水協議会等の関係者間で共有する。

必要な対応のイメージ



様々な手法の活用イメージ



※現行の計画と同じ完了時期までに目標とする治水安全度を達成するため、様々な手法を活用し、集中的に整備を進めることが必要

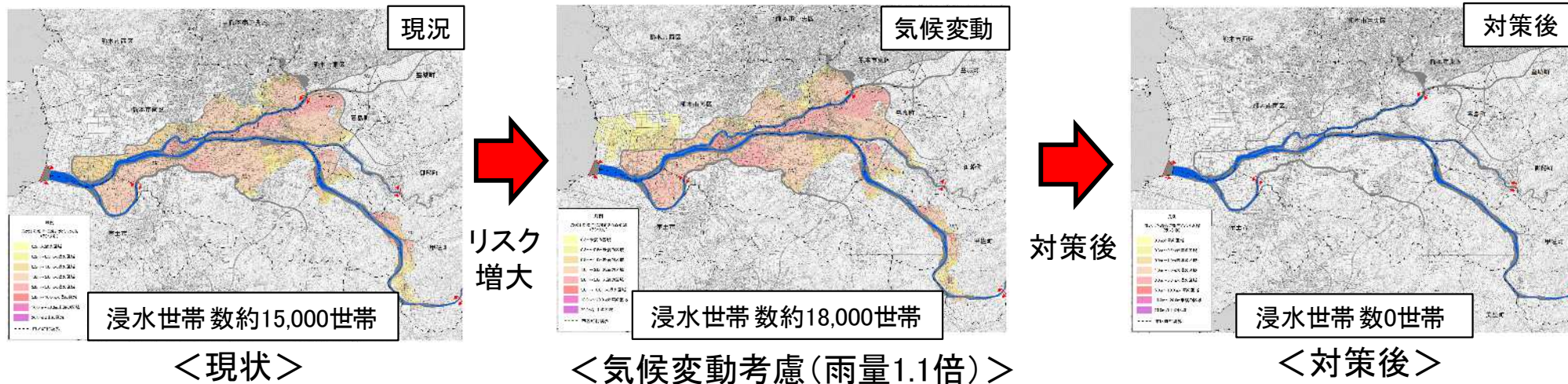
⇒全国109水系で、上記の対策内容を反映した『流域治水プロジェクト2.0』に順次更新する

○既往最大流量を記録したS18.9洪水に対し、2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水が発生した場合、緑川流域では浸水世帯数が約18,000世帯（現況の約1.2倍）になると想定され、事業の実施により、浸水被害が解消される。

※国管理区間における外水氾濫によるリスク

■気候変動に伴う水害リスクの増大

【目標】KPI: 浸水世帯数 約18,000世帯 ⇒ 0世帯



- 上図は、緑川、御船川、加勢川、浜戸川の洪水予報区間について、河川整備計画規模及び気候変動考慮後の外力により浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
- 上図は、緑川、御船川、加勢川、浜戸川における現況の河道・洪水調節施設の整備状況及び流域治水プロジェクト2.0に位置付けている国が実施する氾濫を防ぐ・減らす対策を実施後の状況を勘案したうえで、氾濫した場合の浸水の状況を、シミュレーションにより予測したものです。
- なお、このシミュレーションの実施にあたって、国管理区間以外の支川においては、決壊による氾濫は考慮しておらず、溢水・越水のみを考慮しています。また、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。

■水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

【目標】気候変動による降雨量増加後のS18.9洪水に対する安全の確保

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	国	約18,000世帯の浸水被害を解消	堤防整備 河道掘削 堰改築 既存施設の有効活用 洪水調節施設の整備	概ね 30年
	市町村	洪水時の急激な水位上昇を抑制 内水排除	遊水機能を有する土地の保全	概ね 20年
	市町村	河川への流出抑制 市街地等の浸水の防止	校庭貯留施設整備 小学校敷地内貯留施設整備	概ね 20年

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
被害対象を減らす	県	防災まちづくり	土砂災害警戒区域等の指定による 土砂災害リスク情報の充実	—
	市町村(熊本市)	防災まちづくり	内外水一体型のリスクマップを踏まえた 立地適正化計画の見直し	概ね5年
	市町村	防災まちづくり	土砂災害特別警戒区域 からの移転促進	—
被害の軽減・早期復旧・復興	国	操作の確実性による 浸水被害の軽減	排水機場の遠隔操作・監視	概ね5年
		災害対応や避難行動等の支援	洪水予測の高度化	概ね5年
	県・市町村	避難体制等の強化	広域避難の促進	—

緑川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～歴史的な治水対策の保全及び未来に向けて流域が一体となった防災・減災対策～

R7.5 (整備計画変更に伴う更新)

- S18.9洪水では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したこと等を踏まえ、以下の取り組みを一層推進する。国管理区間においては、**気候変動(2℃上昇)下でも目標とする治水安全度を維持するため、既往最大流量を記録したS18.9洪水に対し2℃上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水を、安全に流下させることを目指す。**
- 堤防整備や河道掘削等の事前防災を引き続き推進し、洪水時の急激な水位上昇を抑制するために、遊水機能を有する土地や歴史的な治水対策の保全を図る。**流出抑制対策の検討や特定都市河川の指定に向けた検討、防災まちづくり等、流域市町村が一体となった防災・減災対策を図る。**



■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・堤防整備、河道掘削、橋梁架替、堰改築、高潮堤防整備、**天明新川水門整備** 等
- ・下水道等の排水施設の整備 ・既存調整池容量の拡充 ・調整池の整備
- ・雨水貯留機能向上 ・水田の貯留機能向上 ・ため池の調査・補強・有効活用
- ・農業水利施設の整備 ・森林の整備、保全、治山施設の整備
- ・排水機場や水路等の事前排水 ・家庭貯留施設整備 ・小学校敷地内貯留施設整備
- ・利水ダム等ダムにおける事前放流等の実施、体制構築(関係者: 国、熊本県など)
- ・流木・塵芥の捕捉 ・既設施設の有効活用 **龍野川合流点処理**
- ・洪水調節施設の整備 ・遊水機能を有する土地の保全
- ・歴史的な治水対策の保全(槽壩) **緑川ダム操作ルール変更**
- ・砂防堰堤整備 ・海岸事業関係者との連携 **特定都市河川の指定**

■ 被害対象を減少させるための対策

- ・内外水一体型のリスクマップを踏まえた立地適正化計画の見直し(熊本市)
- ・災害危険区域の指定(甲佐町、美里町)
- ・立地適正化計画制度における防災指針の作成(熊本市、宇城市)
- ・土砂災害特別警戒区域からの移転促進(流域内の全市町村)
- ・土砂災害警戒区域等による土砂災害リスク情報の充実

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

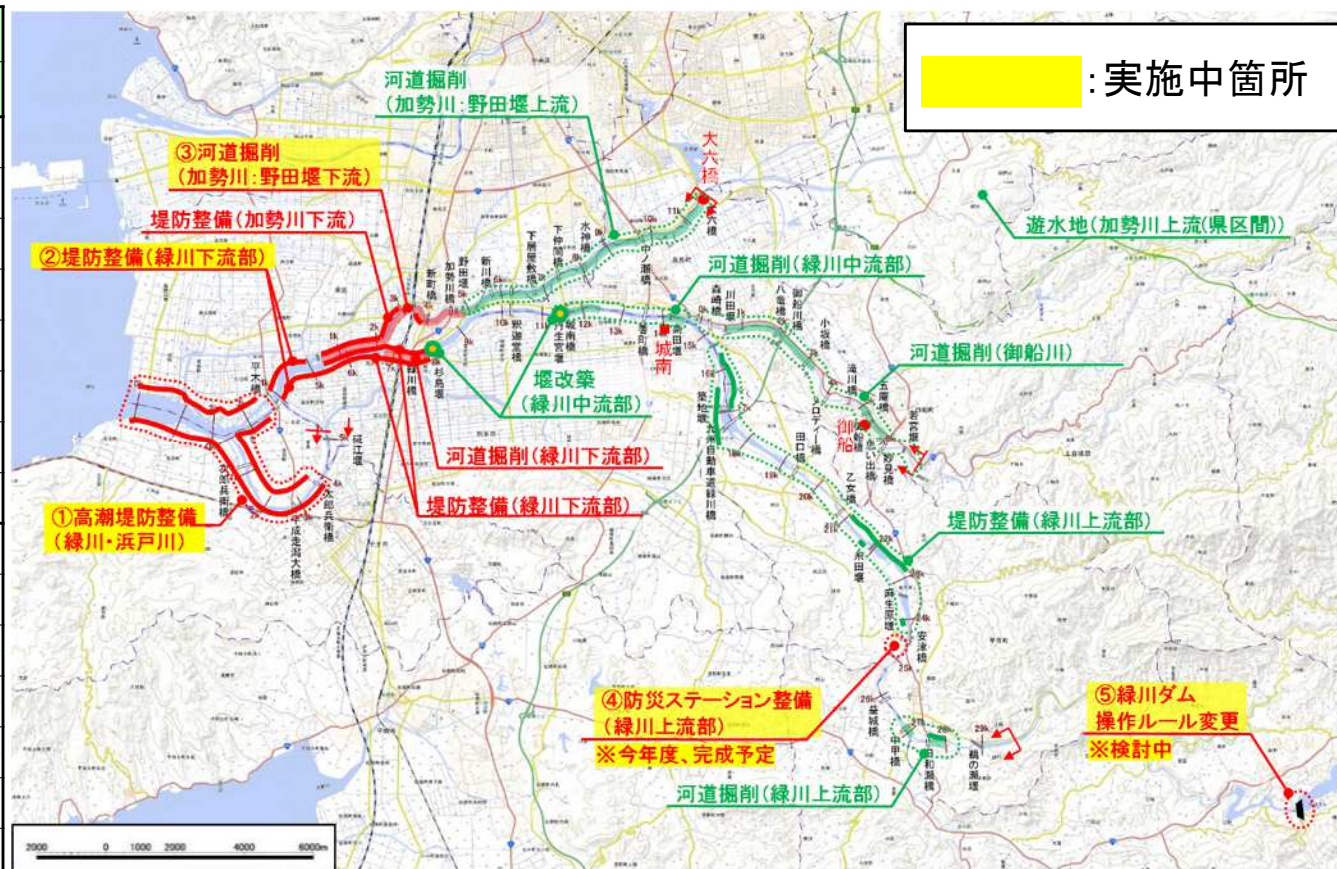
- 国・県・市町村
 - ・水位・河川監視カメラの設置(国、県、宇土市、菊陽町、西原村、甲佐町)
- 県・市町村
 - ・広域避難の促進(県、宇土市)
 - ・マイタイムラインの作成・更新・普及(県、菊陽町、美里町、山都町)
 - ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保等(県、菊陽町)
 - ・避難訓練の実施(流域の全市町村)
- 国
 - ・内外水一体型のリスクマップの作成
 - ・防災ステーションの整備 ・排水機場の遠隔化
 - ・まるごとまちごとハザードマップの作成(想定最大規模)
 - ・三次元管内図の整備
 - ・危機管理型水位計・簡易型河川監視カメラの公開
 - ・洪水予測の高度化
- 熊本県
 - ・水害リスク空白域の解消
 - ・ハザードマップの周知および住民の水害リスクに対する理解促進の取組
- 市町村
 - ・総合防災マップ、ハザードマップの整備(流域内の全市町村)
 - ・ため池ハザードマップの作成、認知度向上(大津町、西原村、宇土市、御船町、甲佐町、益城町、美里町、山都町)
 - ・防災無線・エリアメールの有効活用(大津町、菊陽町、嘉島町、御船町、甲佐町、益城町、山都町)
 - ・HP・防災アプリ等を活用した情報伝達(熊本市、大津町、菊陽町、甲佐町、益城町、山都町)
 - ・熊本地方気象台との連携による避難指示等の遅延防止(菊陽町)
 - ・キックルの普及等ICTを活用した早めの自主避難の促進(菊陽町)
 - ・外国人対応の防災マップ、避難所マニュアル等の整備(菊陽町)
 - ・水防災教育の実施(熊本市、宇土市、甲佐町、美里町)
 - ・防災士の育成(熊本市、御船町、甲佐町、益城町、美里町、山都町)
 - ・自主防災組織の活動の推進(熊本市、西原村、御船町、甲佐町、益城町、美里町、山都町)

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

※流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後河川整備計画の過程でより具体的な対策内容を検討する。

◆今後の事業スケジュール

実施段階	種別	箇所	事業内容	事業期間	
				短期 (R13まで)	中長期
当面の整備	洪水対策	緑川下流部	堤防整備	→	
		緑川下流部	河道掘削	→	
		加勢川下流	堤防整備	→	
		加勢川野田堰下流	河道掘削	→	→
	高潮対策	緑川	高潮対策 (TP7.0m対応)	→	
		浜戸川	高潮対策 (TP7.0m対応)	→	
	防災施設	緑川上流部	防災ST	→	
緑川ダム		緑川ダム操作 ルール変更	→		
河川整備計画対応	洪水対策	緑川中流部	堰改築		→ →
		緑川中流部	河道掘削		→
		緑川上流部	堤防整備		→
		緑川上流部	河道掘削		→
		加勢川野田堰上流	河道掘削		→
		加勢川上流	遊水地		→
		御船川	河道掘削		→ →



当面整備(概ね7年)では、緑川下流・加勢川での堤防整備や、緑川下流(杉島堰より下流)・加勢川(野田堰より下流)での河道掘削を実施する。また、既設緑川ダムにおいて、洪水調節機能を最大限活用する洪水調節ルールへの変更を実施する。
更に、緑川・浜戸川の高潮区間において、計画規模の高潮に対する堤防整備を実施する。

当面整備の費用対効果

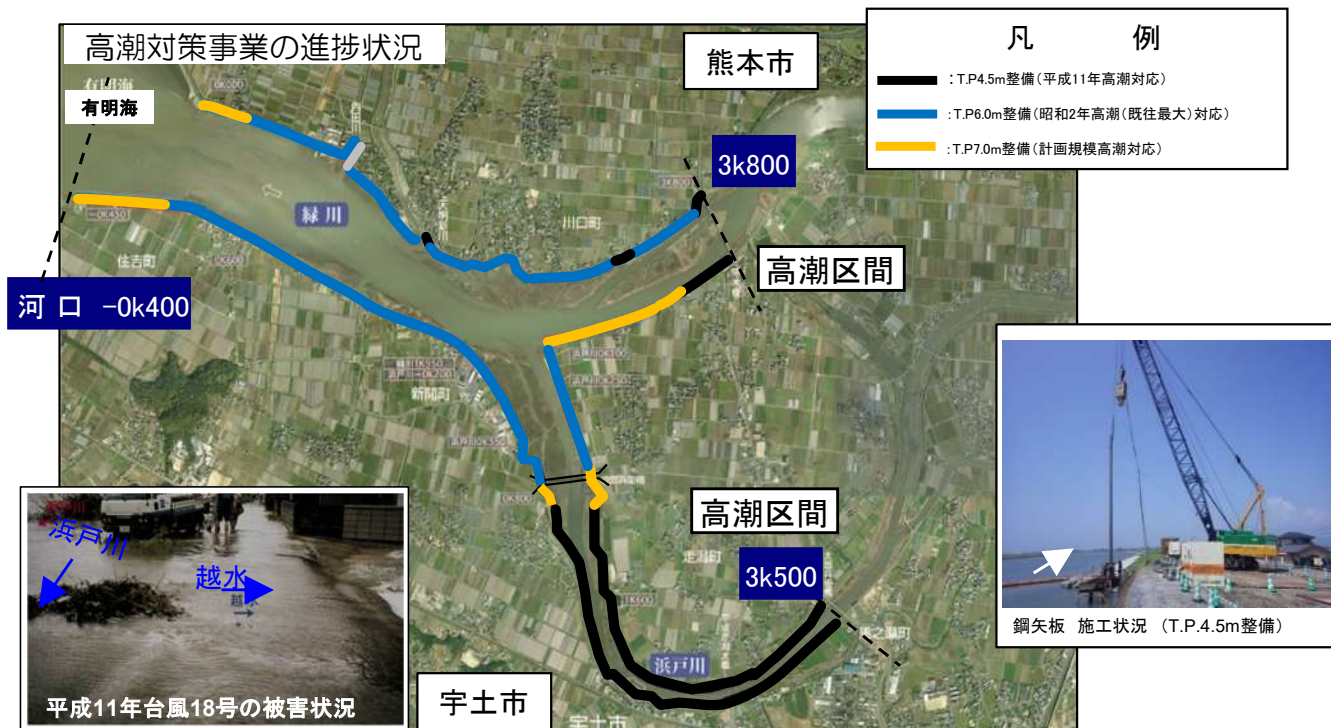
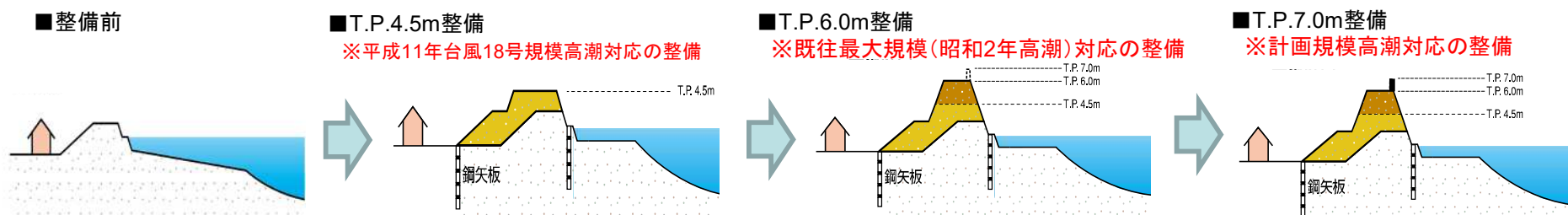
項目	当面整備
便益(B ₁)	484.2億円
残存価値(B ₂)	4.9億円
総便益(B ₁ +B ₂)	489.1億円
事業費(C ₁)	167.6億円
維持管理費(C ₂)	8.2億円
総費用(C ₁ +C ₂)	175.7億円
費用便益比	2.8

※R7～R13の事業実施後の整備効果
(今後の社会情勢等の変化により変わる可能性がある)

① 高潮堤防整備(緑川・浜戸川)

- 緑川河口部や浜戸川は堤防が低く、断面も小さいため高潮に対する安全度が低い。
- 平成22年度より、緊急対策特定区間として、緊急的に堤防整備を実施。
- 第1段階として平成11年台風18号規模の高潮被害の解消を目的に実施してきたT.P. 4.5m (高潮I期) の堤防整備が令和4年度に完成し、現在実施中の第2段階T.P. 6.0m (高潮II期) の整備が進捗してきたことから、令和7年度より平行してT.P. 7.0m (完成) の整備を実施中。

高潮対策の整備手順イメージ



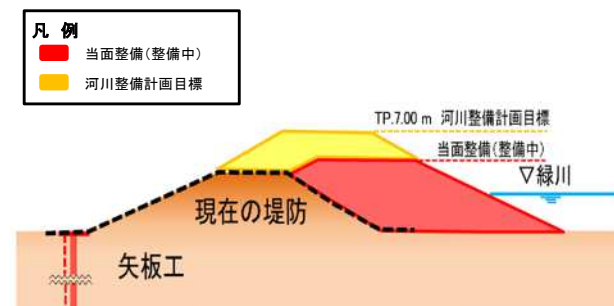
4) 河川整備の進捗・実施状況

＜治水＞河川改修－緑川下流堤防整備

②堤防整備（緑川下流部）

○加勢川合流点下流に位置する美登里及び莎崎地区において、当面整備として、加勢川における河道掘削による洪水流量増加に対応可能な堤防整備を実施中。

美登里及び莎崎地区河川改修



- 凡例
- 実施済み
 - R7実施予定
 - R8以降残



③河道掘削(加勢川:野田堰下流)

- 加勢川は氾濫域に熊本市を抱え資産が集中しているが、治水安全度が1/5程度と著しく低かったことから、平成23年度より河道掘削に着手し、流下能力の向上を図っている。
- 令和2年度に第1段階の1/10対応の河道整備が完了したことにより、令和3年度以降は、第2段階の1/30対応の河道掘削を下流側の六間堰から実施中。



平成9年7月の浸水状況



平成2年6月の浸水状況



平成2年6月の越水状況

加勢川河道掘削の進捗状況

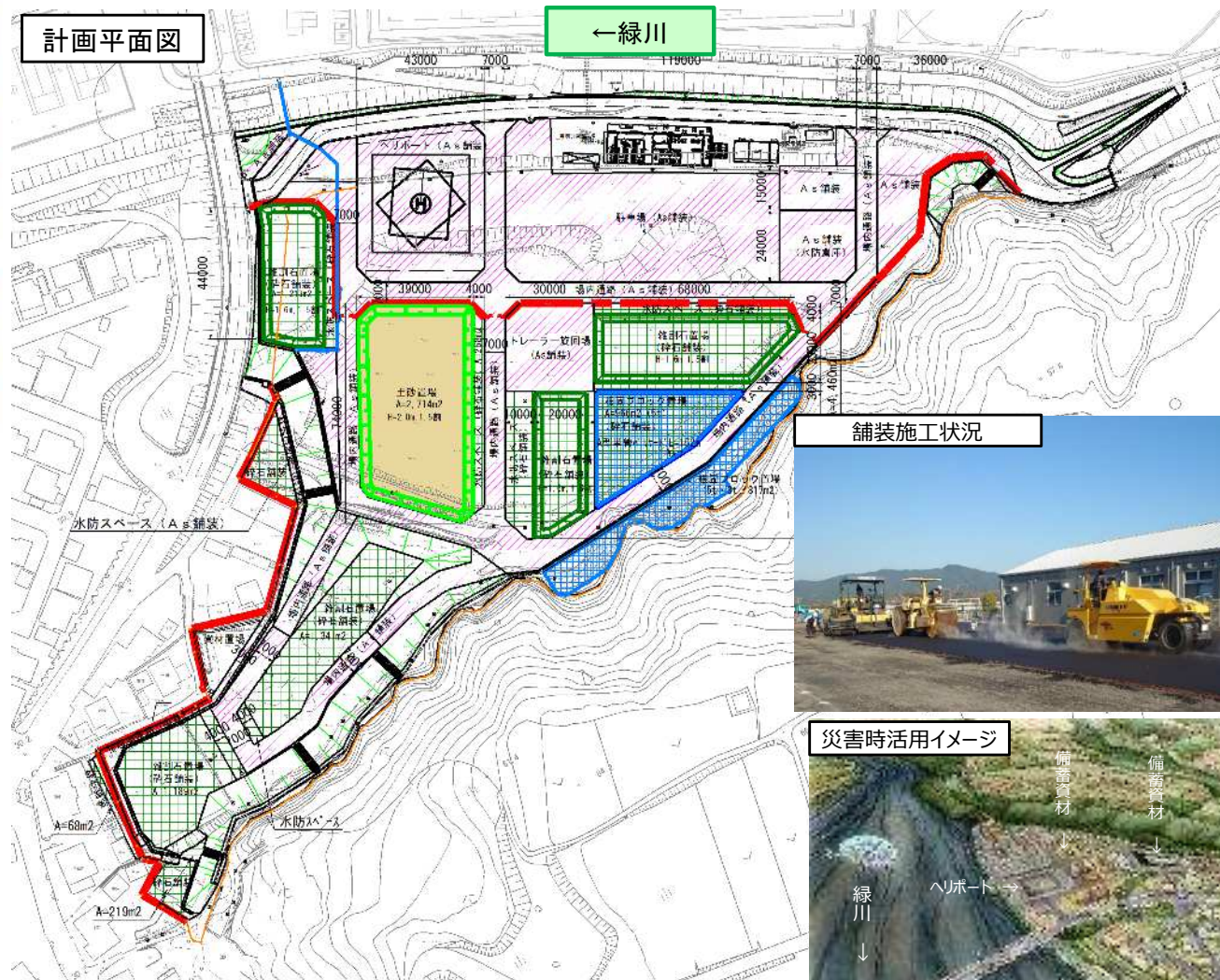


1/30 河道掘削 施工状況

④防災ステーション整備(緑川上流部)

○緑川上流部における災害時の迅速かつ円滑な復旧活動を行うための防災拠点(防災ステーション)の整備に令和3年度に着手しました。

○防災拠点整備は復旧活動に必要な水防資材の備蓄、ヘリポート等整備のほか、甲佐町による水防活動を円滑に行う拠点となる水防センターを設置する計画としてすすめており、令和7年度の完成を目標に鋭意整備を進めています。



諸元
 河川名：緑川水系緑川
 設置位置：熊本県甲佐町船津地先
 (左岸 24k600k付近)
 主な設備：水防施設、防災ヘリポート等
 備蓄資材：土砂、岩砕、根固ブロック等

⑤ 緑川ダム操作ルール変更

- 基準地点城南で目標流量4,600m³/s、河道への配分流量を3,700m³/sとし、900m³/sを洪水調節施設で対応。
- 洪水調節開始流量は、ダム下流で河道の流下能力が低い地点で設定していたが、河川改修が進捗したことにより、洪水調節開始流量を500m³/sから800m³/sに変更することで空き容量を確保。
- 空き容量も活用し、洪水調節率を変更することによって、洪水時の河川ピーク水位を低下させる。

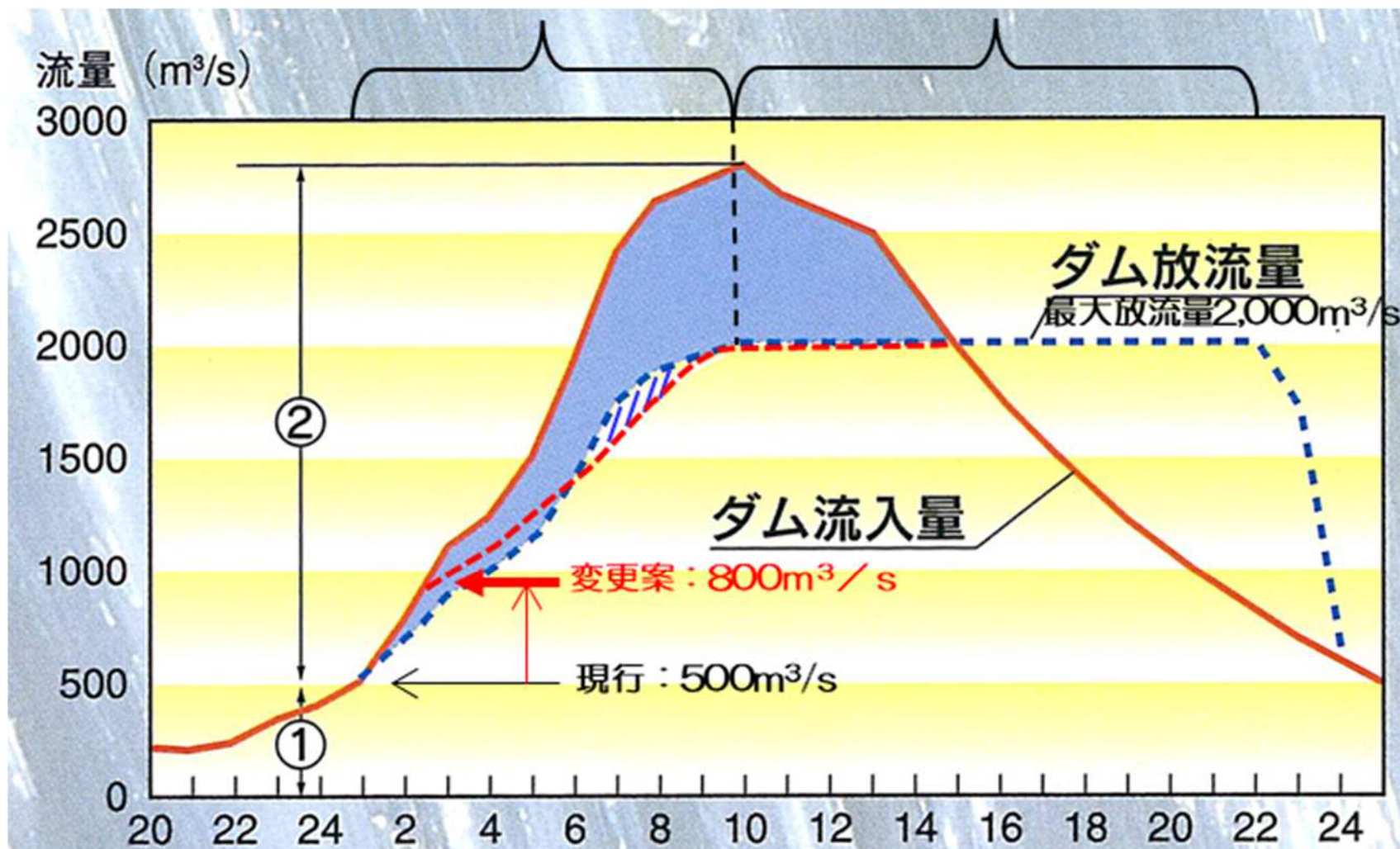


図 緑川ダムにおける洪水調節イメージ

4) 河川整備の進捗・実施状況

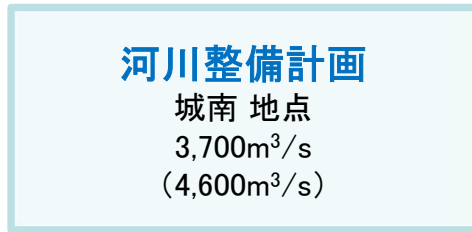
<環境> 緑川水辺空間計画(案)

- 「緑川水辺空間計画(案)」では、整備計画では詳細に記載されていない4河川(緑川、浜戸川、加勢川、御船川)で異なる歴史や自然環境、利用、景観等の特性を把握しやすくすること、河川改修や維持管理等の事業を実施する際のポイントを理解しやすくすることを主な目的としている。
- これまで「緑川水辺空間計画(案)」を活用して、高潮堤整備と河道掘削などの整備計画に位置付けられた改修事業を実施。
- 令和7年1月に変更した「緑川水系河川整備計画」に基づいた河川整備を進めるにあたり、整備計画に記載した水辺空間や景観・環境、防災等に関する思想や考え方を具体的に反映するため、学識者懇談会やワーキングを通じて「緑川水辺空間計画(案)」の変更を行う。

河川整備計画

河川整備基本方針に沿って定める中期的な
具体的整備の内容
(計画対象期間：30年)

R7.1 変更



段階整備

反映

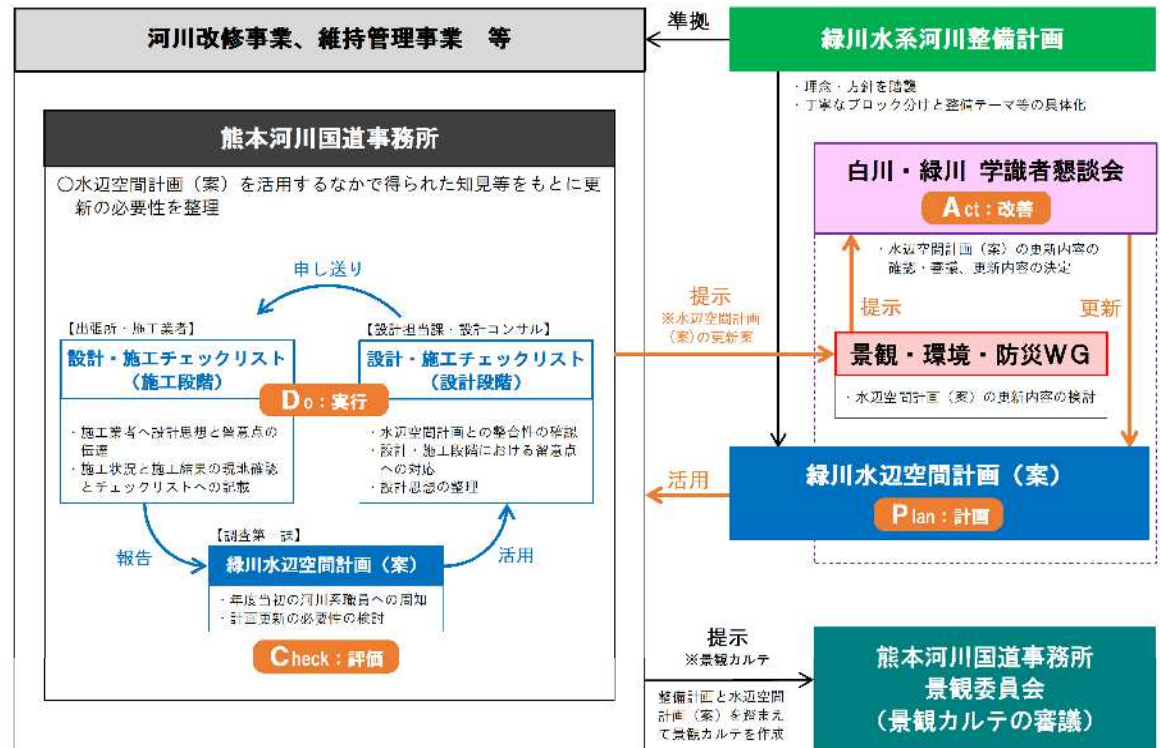
河川整備基本方針

長期的な河川整備の最終目標



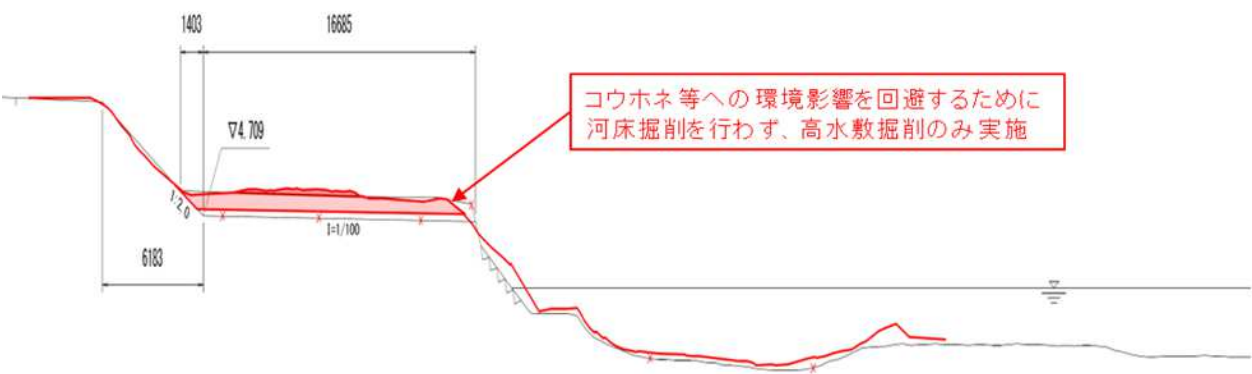
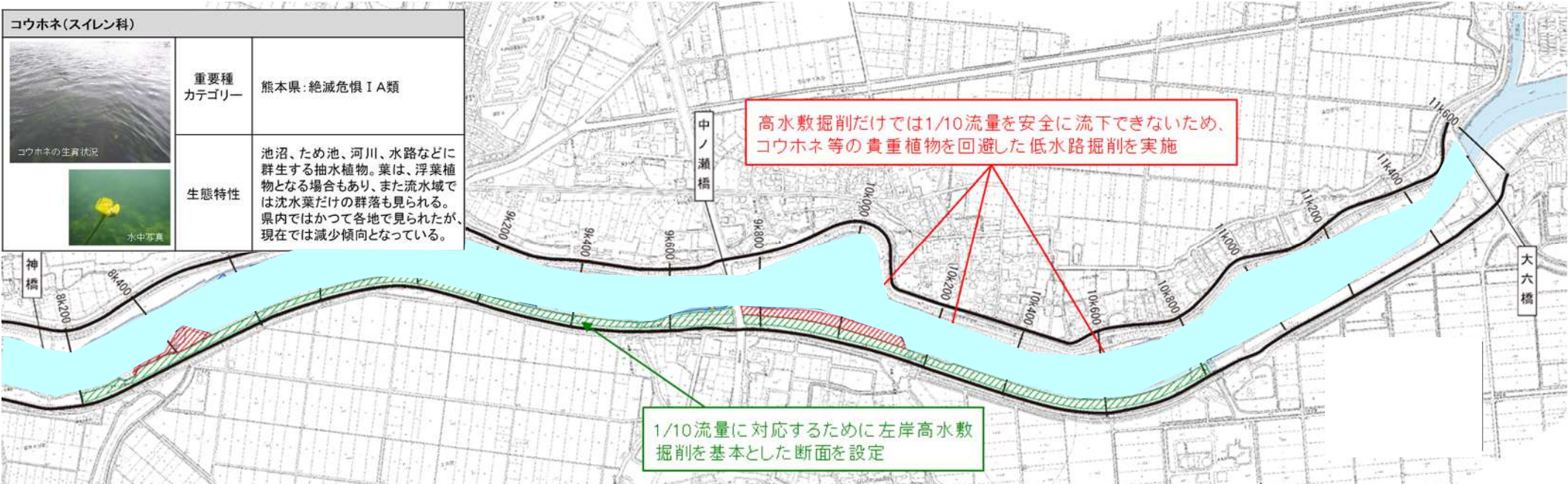
緑川水辺空間計画(案)

- ※ 整備テーマ、基本方針を踏襲
- ※ 具体的内容は別の枠組みで議論のうえ各地区の川づくりに反映



4) 河川整備の進捗・実施状況 <環境> 加勢川における環境に配慮した河川整備①

- 加勢川8k200～11k000区間では、1/10対応河道を整備するために、令和元年度から低水路掘削及び高水敷掘削が行ってきた。
- 1/10対応河道の整備範囲等の設定にあたっては、当該区間に生育する重要な植物(コウホネ等)の分布状況を踏まえて検討・実施し、コウホネ等の保全を図った。
- 環境アドバイザーの助言を踏まえ、令和5年度より江津湖および加勢川へ試験移植を実施しており、生育状況のモニタリングを実施している。今年度も良好な生育が確認された地点があり、今後実施する上流の河道掘削時の仮移植場所(又は本移植場所)として、有効活用することが考えられる。



江津湖内に試験移植したコウホネの生育状況
※当初の移植範囲から根茎の拡大が進んでおり、良好な生育状況が確認されている。(令和7年10月確認)

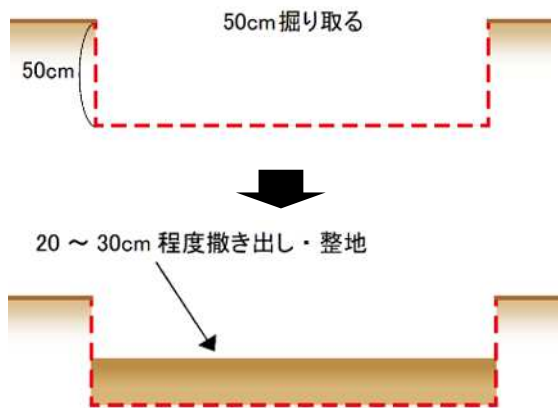
加勢川における1/10対応河道(横断面) ※10k400

4) 河川整備の進捗・実施状況

【過年度及び直近の実施状況】

＜環境＞加勢川における環境に配慮した河川整備②

- 加勢川8k200～11k000区間では、1/10対応河道を整備するために、令和元年度から低水路掘削及び高水敷掘削が行ってきた。
- 加勢川9k800～10k800区間の河道掘削(1/10)では、セイタカヨシを保全するために、表土移植(剥ぎ取り・仮置き・撒き出し)を行った。表土移植後の約3年後には、セイタカヨシが復元していることが確認できており、令和7年度においても生育が確認されている。



掘削・撒き出しイメージ



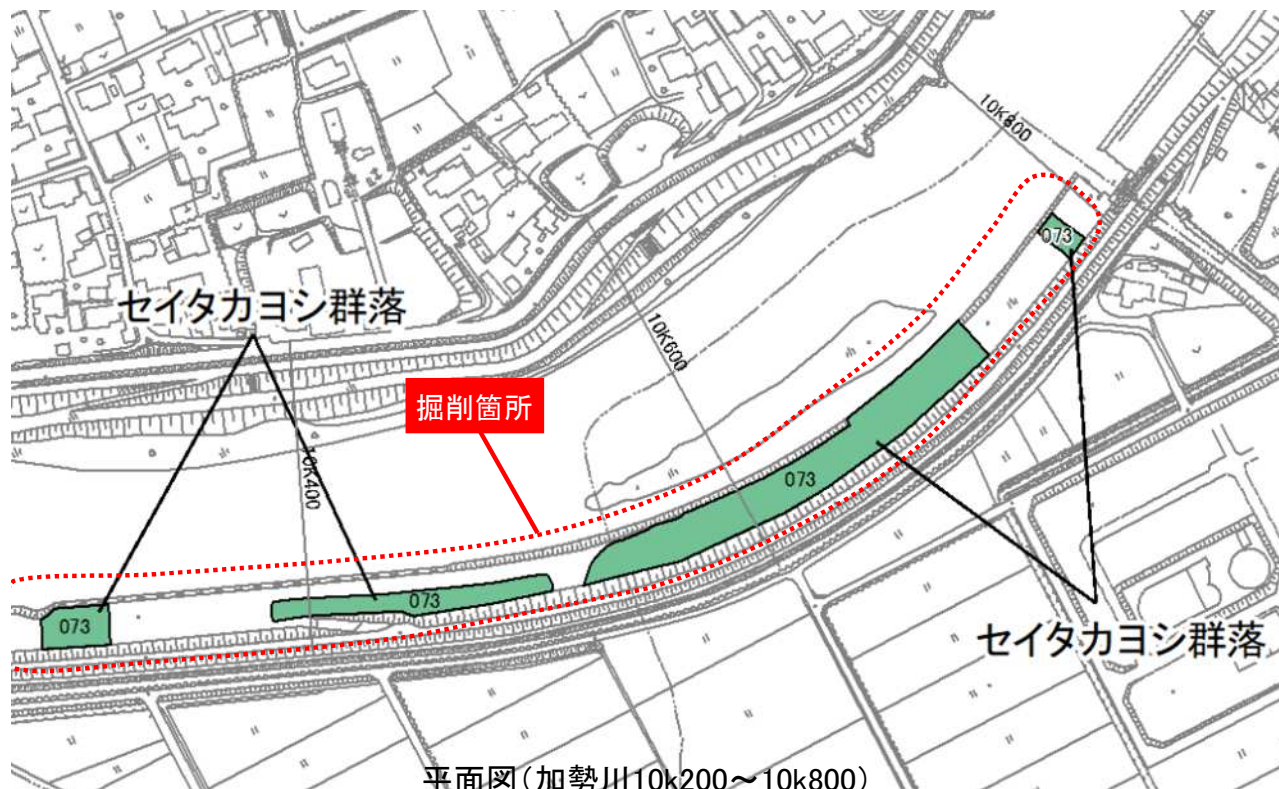
現地立会状況(R2.10)



約3年経過



※群落は令和7年度においても生育が確認されている。

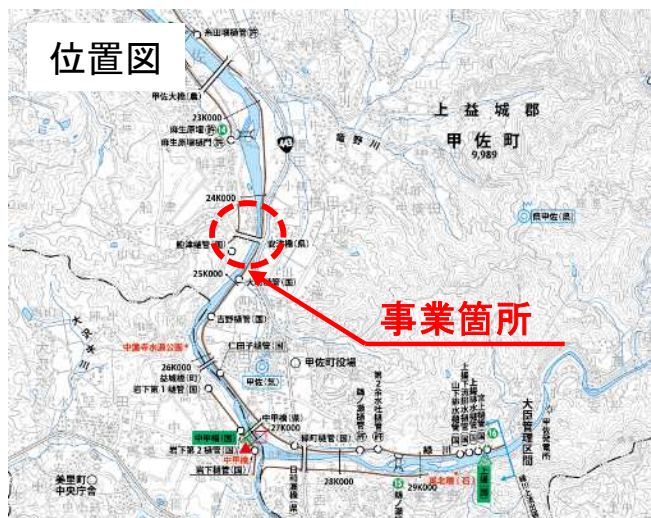


平面図(加勢川10k200～10k800)

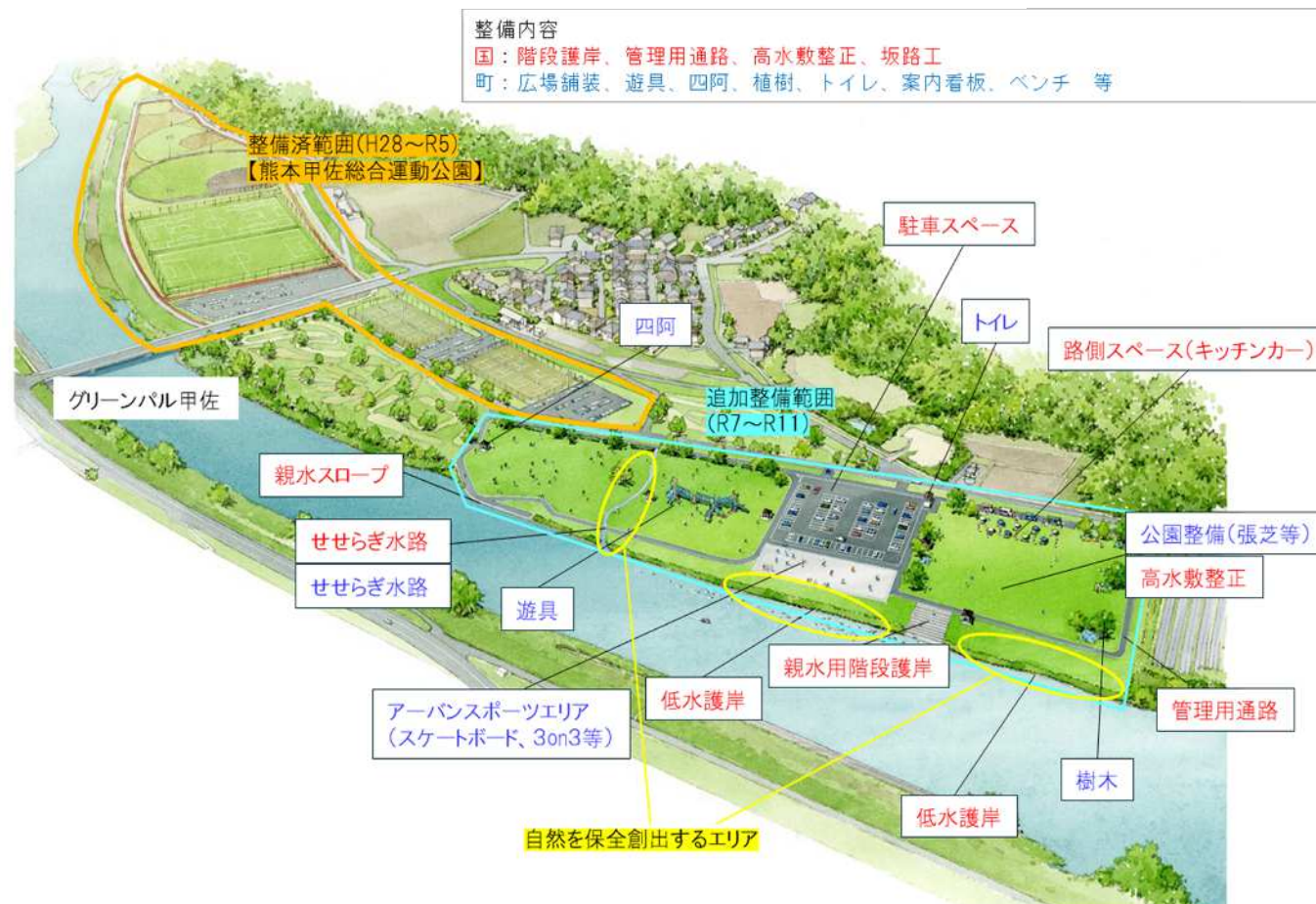
4) 河川整備の進捗・実施状況 <環境> 環境整備(甲佐地区)

- 平成27年度より、甲佐地区における環境整備事業に着手し、令和5年度に完了。
野球やサッカー、テニスなど様々なスポーツができる公園として賑わっており、年間を通して多くの利用がみられる。
- 甲佐地区の更なる利用者拡大に向け、下流側に家族連れや親子で憩うことができる空間の創出を行うため、令和6年度にかわまちづくり事業の変更登録を行い、令和7年度より環境整備事業に着手。
- 国土交通省においては、河川利用・管理上の安全性・利便性を高めるため高水敷整正、管理用通路、親水護岸等の整備を実施することとしている。

甲佐地区かわまちづくりの整備イメージ



整備済エリアの状況



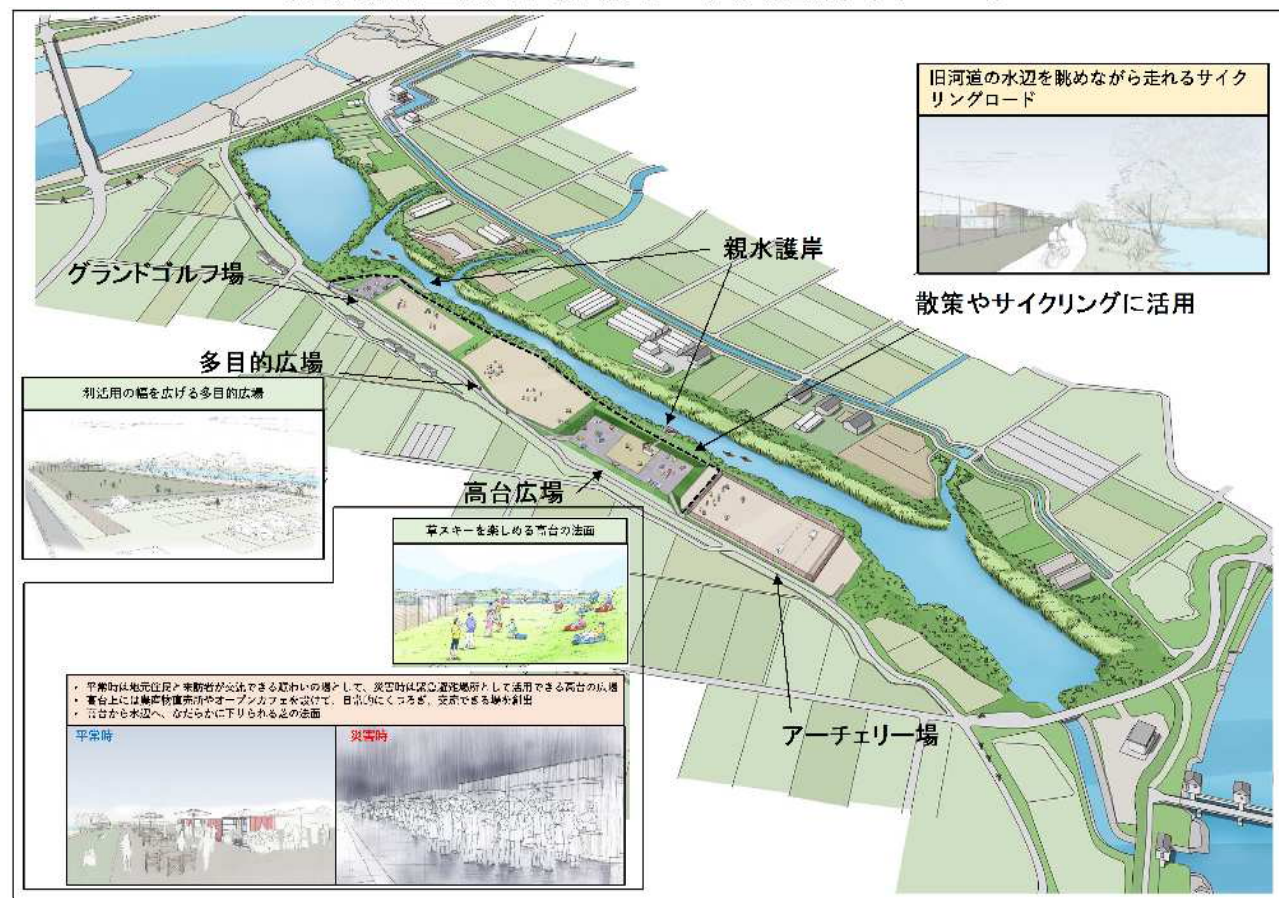
※今後、工事实施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

○令和4年度より、走潟地区における環境整備事業に着手。

○宇土走潟地区の旧河道部においては、親水護岸・カヌー乗り場の整備による安全に水辺に親しむ環境の形成や、高水敷での広場・アーチェリー場の整備によるスポーツ交流拠点の整備により、更なる走潟地区の賑わい創出が臨まれており、国土交通省においては、河川利用・管理上の安全性・利便性を高めるため管理用通路、親水護岸等の整備を実施することとしている。



走潟地区かわまちづくり整備イメージ



※今後、工事实施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

4) 河川整備の進捗・実施状況 <治水・環境> (河川の維持管理対策)

- 洪水、高潮等による災害の発生を防止、あるいは発生した場合において被害を最小限とするためには、既存の堤防、護岸、樋門等の河川管理施設がその機能を十分に発揮できるように、平常時からの維持管理が重要。
- このため、平常時・洪水時の河川巡視のほか、定期的な堤防除草、堤防・護岸や樋門・樋管など河川管理施設の点検や調査によって現状を把握し、必要に応じて老朽化施設の補修や修繕等を実施。
- また、河川空間の適切な利用と管理のため、不法占用や不法投棄の監視・把握を行い、必要に応じて指導や是正等を実施。

河道の維持管理

<実施項目>

●河道管理

(適正な河道断面を確保し、河川管理施設が常に機能を発揮できるように堆積土砂撤去等を実施)

●河道内樹木管理

(樹木の生長や繁茂の状況を定期的に調査・監視、必要に応じて樹木の伐採を行い、河道内樹木の管理に努める)

河道管理



土砂堆積部の河道管理 (御船川での実施例)

河道内樹木管理



河道内に繁茂する樹木の例



河道内に繁茂する樹木群

河川管理施設の維持管理

<実施項目>

●堤防や護岸の維持管理

(河川巡視や堤防のモニタリング調査等による変状確認及び必要に応じて修繕等を実施)

●樋門・樋管の維持管理

●橋梁や排水機場等の許可施設の管理確認

堤防天端



樋管



補修対策を必要とする河川管理施設 (クラック*の発生状況)

*クラック：亀裂やひび割れのこと

河川巡視

河川空間の管理

<実施項目>

■河川空間の保全と利用

■不法占用・不法行為等の防止

■河川公園等の占用地の管理確認

(河川敷等におけるゴミ投棄や特定占用等の不法行為を監視・把握し、必要に応じて指導や是正等を実施)

4) 河川整備の進捗・実施状況 <治水・環境> (外来水草除去)

○緑川水系は、加勢川の水面を覆うように生息するボタンウキクサや、近年江津湖等で確認されているブラジルチドメグサ等の水草(特定外来生物)の繁茂が著しいため、重要種やその他多くの生物に影響を及ぼしています。

○そのため、「緑川水系水草対策連絡協議会」を設立(H21.11)し、各関係機関が連携し、緑川水系の水草対策を推進する目的として、情報の交換や一斉駆除作業を継続して実施しています。

(平成21年度 下江津湖における水草一斉駆除)

- ・外来水草の繁茂が著しく、地域の関心が高い江津湖において、行政、民間企業、大学、地域住民、関係機関等、約500人が連携して、初めてとなる大規模な一斉除去作業を実施。



上江津湖 初めて合同で

「使ったウオーターレス」0.0立方メートルを除去し、タヌキなどすくすく上った。水草は数日乾燥させ、8時間で約15トン。市が推進処分する。嘉安会長(右)は「市民も広く連携し、これからは正統派だ」と述べた。(高松亮雄)

(令和7年度 水草対策連絡協議会)

- ・加勢川全域において効率的に外来水草除去作業を行うべく、各市町村の対策状況や水草除去量等を共有。



※各市町村による対策状況や位置の共有による対策の効率化を図る

(令和7年度 下江津湖における水草一斉駆除)

- ・「緑川水系水草対策連絡協議会」が中心となって、12月4日に関係行政機関、漁業者及びNPO法人等と連携し、江津湖で水草の一斉駆除を実施



水草除去作業状況

4) 河川整備の進捗・実施状況

＜治水＞河川維持管理－緑川ダムの操作管理

・令和7年8月11日の出水により、緑川ダムには約4,800m³(例年の4～5倍)の流木や塵芥が流入してきましたが、それらを捕捉し回収することで、下流河川への流下を防いでいます。



地域連携 × 流域治水(緑川の日一斉清掃)

- ・緑川流域では、毎年4月29日を「緑川の日」として、地域住民や河川で活動している団体、イオンモール等の企業、行政が一体となり緑川の一斉清掃等を実施。今回(令和7年4月29日)は、32回目となる。
- ・チラシの配布による広報を実施。
- ・河川敷の清掃に加え、住宅や側溝等の清掃も行うことで、大雨時の水の流れを良くし、道路等の浸水を軽減させる。
- ・参加者から、「歩いてみるとゴミの多さに気づく」「環境への意識が高まった」などの意見があり、清掃を通じて 流域住民の環境への関心が高まり、ゴミを減らす意識に繋がった。

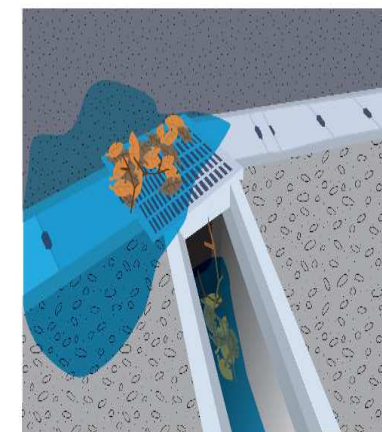


緑川の日(R7.4.29)

チラシによる広報

○側溝、排水溝の掃除

・側溝や排水溝に砂や落ち葉が溜まってしまうと、水の流れが悪くなり道路に水が溜まってしまいます。大雨が降る前に確認して事前に掃除を済ませておくこともできます。



地域連携×流域治水(小学校における防災教育)

- ・令和7年10月23日に日吉東小学校にて、地域とともに育ち地域を担う子供たちの水防災意識の高揚を図ることを目的に防災授業を開催。
- ・日吉東校区にクローズアップした流域の特徴や水災害の歴史の座学講義と合わせて、「簡易降雨体験機」「浸水ドア」「AR」などの体験型の防災学習授業を行い、防災に関する啓発活動を行った。
- ・昨年度に引き続きの取組となっており、来年度も継続して行うことを考えている。
- ・「浸水ドアを体験し、浸水したドアがあんなに重いとは思わなかった。早めに逃げるのが大切だと学んだ。」と感想をもらい、学生の防災意識向上に繋がった。

▼防災授業の様子



▼午後からの体験学習の様子



地域連携×流域治水(緑川フェスタ)

- ・緑川流域の地域住民の防災意識向上を目的に、「遊びながら学ぶ」をテーマに例年、緑川フェスタを開催している。今年度は令和7年10月4日に開催し、来場者は約700名であった。
- ・緑川流域団体をはじめ、流域自治体や災害時協定業者などからPRブースを出展し、遊びながら流域治水や防災について学べる内容となった。
- ・各PRブースにおいて、建設機械搭乗体験や流水圧体験、ジェットスキーやEボートの乗船体験等を行った。
- ・「実際に体験しながら、学ぶことで防災についてより理解が深まった」との感想をいただき、防災意識向上に繋がった。

みどり川 魅緑再発見イベント あそぼうさい

みどりかわフェスタ 2025

2025. 10/4 (土) 10:00 ~ 15:00

嘉島町・犬淵河原 小雨開催 入場無料

ふれあい重機体験 水のアクティビティ体験 外来水草展示

緑川ダム模型展示 川の安全クイズ大会 浸水ドア体験

会場：嘉島町・犬淵河原

プログラム内容を予告なく変更する場合や、天候等の理由により中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。
中止の場合は、前日の午前中に緑川流域会議のSNS(Facebook・X・Instagram)にてお知らせします。若しくは、事務局までお問い合わせください。

QRコード: 緑川 Instagram, 緑川 Facebook, 緑川 KDD Twitter

【主催】緑川流域会議(緑川流域のNPO法人及び住民団体、熊本県・熊本市・宇土市・宇城市・嘉島町・甲佐町・益城町・美里町・御船町・山都町・国土交通省)
【協力】(一社)熊本県測量設計コンサルタンツ協会(㈱ ARIAKE、㈱九州開発エンジニアリング)
緑川上流・下流管内安全協議会(諫山工業㈱・三州建設㈱・三洲建設㈱・柳杉本建設・大政建設㈱・柳中内土木・柳南州土木・昇建設㈱・松本建設㈱・明治建設㈱・衛八十建設・矢部開発㈱・柳吉永産業)
緑川漁業協同組合・柳建設環境研究所

緑川流域会議 事務局 ☎080-7959-2706
国土交通省 熊本河川国道事務所 流域治水課 ☎096-382-1132



流水圧体験



建設機械搭乗体験



ジェットスキーやEボート等の乗船体験



川の安全利用クイズ

地域連携 × 流域治水(緑川流域つなぐ座談会)

- ・緑川流域における住民団体のこれまでの活動を振り返るとともに、「緑川流域のこれからを考える」をテーマに、流域の団体間や世代間の更なる交流・連携やこれからを担う子どもたちなど次世代への伝承・育成のあり方など、緑川流域が抱える課題解決に向けて、官民が一緒になって幅広く意見交換を行う会議(令和8年2月7日開催)
- ・河川協力団体が主催する会議(一般住民も参加可能)で、流域治水を話題に入れながら、学生、学識者、地元住民、行政等がそれぞれの観点からディスカッションを実施し、地域間の更なる連携の強化に繋がった。



緑川流域会議の取組等活動状況報告



ワールドカフェスタイルでディスカッション

企業連携 × 流域治水(水害版企業BCP策定支援)

- ・流域内の企業の水防災意識向上を目的に、令和6年度にモデルケースとしてコストコホールセンター熊本御船倉庫店、御船町と連携し、水害版企業BCP策定を実施。
- ・コストコBCP策定(R6年度)の知見を活かして、令和7年度に第2弾として、熊本市と連携し、SDGs企業である鶴屋百貨店を対象に水害版企業BCPの策定支援をしつつ、その知見を元に水害版BCP策定マニュアルを作成している。
- ・今後は、作成した水害版BCP策定マニュアルを様々な企業へ展開する予定。

令和6年度実施(コストコBCP策定)

コストコ水害版BCP(第一版)



令和7年度実施(鶴屋百貨店BCP策定)

鶴屋百貨店水害版BCP(第一版)



平成25年1月 緑川水系河川整備計画 策定

令和7年1月 緑川水系河川整備計画 変更

令和8年2月 緑川水系河川整備計画 第4回点検（今回）

整備計画の基本理念

①災害を減らし、流域の住民が安全に暮らせる川にする

緑川流域では、これまでに幾度も甚大な浸水被害等が発生しており、流域の治水安全度は十分に確保されていない。そこで、緑川水系の整備については、本計画で定める目標の洪水に対し、被害の防止又は軽減を図るための整備を実施する。

さらに、気候変動の影響も踏まえ、流域全体のあらゆる関係者と共に、被害の軽減に向けた「流域治水」を推進し、人命を守り、社会経済被害を最少とすることを旨とする。

②豊かできれいな水を後世に残していくために努力する

緑川水系は、地下水涵養源としての役割を担っており、流域の湧水が名水として親しまれていることなどから、河川水と地下水の良好な水量・水質の保全を図り、豊かできれいな水を後世に残していく。

③河川（水域）生態系の保全と再生を図る

緑川水系には、上流部から河口域まで多種多様な動植物が生息・生育・繁殖していることから、動植物の生息・生育・繁殖環境を保全し、必要に応じて再生を図ることとする。また、自然環境が有する多様な機能を活用したグリーンインフラや河川対策を契機に更なる良好な河川環境を創出するネイチャーポジティブを推進する。

④緑川固有の文化・歴史に学び、良好な景観の保全を図る

これまでの地域の人々と緑川との歴史的・文化的な関わりを踏まえ、緑川の清らかな流れと豊かな自然が織りなす良好な河川景観を保全し、次世代に引き継ぐように努める。

点検項目

社会情勢の変化

- 流域内の人口、土地利用等に大きな変化はないが、想定氾濫区域内資産額は増加
- 近年、緑川流域においても1時間あたりの降雨量は増加傾向である。また令和7年8月においては、緑川本川において、既往最高水位を記録した。
- 緑川流域を含め、全国的に大規模な出水による災害が発生しており、河川整備の必要性は更に高まっている。

河川整備の進捗・実施状況等

- 河川改修事業及び環境整備事業を継続して実施中。【①,④対応】
- 近年の気候変動に対応するため、流域治水協議会を設立し、関係機関と協働で減災のための取り組みを推進中。【①対応】
- 河川管理施設・流水・河川空間の適正な維持管理、危機管理を実施中。【①,②,③対応】
- 水辺空間計画等を活用しながら、河川環境・景観等に配慮した事業を実施中。【①,②,③,④対応】
- 防災教育や環境学習、河川情報の共有化等、関係機関と連携し地域とのコミュニケーションを推進。【①,②,③,④対応】

【点検結果】

引き続き、現計画に基づき、河川整備を実施する